

Accuphase

# MDS SUPER AUDIO CD PLAYER



MDS SA-CD プレーヤー

## DP-570S

### 取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み  
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか  
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保管してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。  
 ございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

## 5年間の品質保証と保証書

本機の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード（保証書発行はがき）」に必要事項を記入の上、必ず（なるべく10日以内に）ご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

\*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは32ページをご参照ください。

\*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、お届けした保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.

### ご注意

- ① 本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改編することはおやめください。
- ② 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- ③ 本書に、ご不明な点、誤り、記載もれ、乱丁、落丁などがありましたら弊社までご連絡ください。



## マークについて

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じるおそれがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



## 警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



## 注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じるおそれがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

## 付属品をご確認ください

- 取扱説明書（本書）…………… 1冊
- 安全上のご注意…………… 1冊
- 品質保証書について／  
お客様カード（保証書発行はがき）…………… 1枚
- 目隠しシール…………… 1枚
- リモート・コマンダー RC-150…………… 1個

- 単3乾電池…………… 2個
- AC電源コード(2m)…………… 1本
- プラグ付オーディオ・ケーブル(AL-10)(1m)…………… 1組
- USBドライバー4・CD…………… 1枚
- USBドライバー4・セットアップガイド…………… 1冊

### 著作権について

放送や録音物（CD、テープなど）から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

### 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用したりするののも一つの方法です。

## 目

## 次

付属品をご確認ください ..... 表紙裏頁

## 1. 安全上必ずお守りください ..... 2~5

- ⚠警告 ..... 2
- お使いになる前に ..... 2
- ⚠注意／快適にお使いいただくために／お手入れ ..... 3
- 録音について ..... 4
- 本機で演奏できないディスク ..... 4
- 本機で演奏できるディスク ..... 5
- HS-LINKについて ..... 5

## 2. 各部の名前 ..... 6, 7

- フロント・パネル ..... 6
- リモート・コマンダー RC-150の機能、リア・パネル ..... 7

## 3. 接続図 ..... 8

## 4. リモート・コマンダーのご使用方法 ..... 9

## 5. 各部の動作説明 ..... 10~16

## フロント・パネル ..... 10~12

- 1 電源スイッチ ..... 10
- 2 SA-CD/CDボタン ..... 10
- 3 INPUTボタン ..... 10
- 4 ディスク・トレイ ..... 10
- 5 ▲ OPEN/CLOSEボタン ..... 11
- 6 ▶ PLAYボタン ..... 11
- 7 || PAUSEボタン ..... 11
- 8 ◀◀ BACK/NEXT ▶▶ ボタン ..... 11
- 9 ■ STOPボタン ..... 11
- 10 リモート・センサー ..... 12
- 11 ディスプレイ ..... 12

## リモート・コマンダー RC-150 ..... 13

- 12 LEVELボタン ..... 13
- 13 選曲ボタン ..... 13
- 14 REPEATボタン ..... 13
- 15 TIMEボタン ..... 13
- 16 PROGRAM/CLEARボタン ..... 13

## リア・パネル ..... 14~16

- 17 デジタル入力端子 ..... 14
- 18 アナログ出力端子 ..... 14
- 19 トランスポート出力端子 ..... 15
- 20 極性切替スイッチ ..... 16
- 21 AC電源コネクタ ..... 16

## 6. ご使用方法 ..... 17~23

- 6.1 基本的な演奏 ..... 17
- 6.2 基本的な操作方法 ..... 17
- 6.3 プログラム演奏 ..... 18
  - プログラム演奏を行うには ..... 18
  - プログラムの内容を確認するには ..... 19
  - 表示を切り替えるには ..... 19
  - 通常の演奏に戻すには ..... 19
- 6.4 データ・ディスクの演奏 ..... 20
  - 演奏できるファイルの仕様 ..... 20
  - 演奏可能な最大ファイル数とフォルダ数 ..... 20
  - ファイルの演奏順番について ..... 20
  - フォルダとファイルの構成 ..... 21
  - 演奏方法について ..... 21
  - DSDディスクについて ..... 21
- 6.5 HS-LINKバージョンの変更方法 ..... 22
- 6.6 パワー・オン・プレイの設定方法 ..... 22
- 6.7 オート・ポーズの設定方法 ..... 23
- 6.8 6.5項~6.7項の設定を出荷設定に戻す方法 ..... 23

## 7. デジタル端子の活用方法 ..... 24~26

- 7.1 デジタル信号を入力して演奏する場合 ..... 24
- 7.2 デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合 ..... 25
- 7.3 ヴォイス・イクライザーをデジタル信号で  
接続する場合 ..... 26

## 8. HS-LINKについて ..... 27

- 『Ver.1対応機器』と『Ver.2対応機器』 ..... 27
- 注意：Ver.2対応機器からVer.1対応機器への接続方法 ..... 27
- HS-LINKケーブル ..... 27

## 9. 保証特性 ..... 28

## 10. 特性グラフ ..... 29

## 11. ブロック・ダイアグラム ..... 30

## 12. 故障かな？と思われるときは ..... 31

## 13. アフターサービスについて ..... 32

# 1. 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

## 警告

### ■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災となるおそれがあります。

### ■付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。

- 感電や火災となるおそれがあります。

### ■ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。

- 感電するおそれがあります。

### ■電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしたりしない。

- 電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災となるおそれがあり危険です。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

### ■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が確保されないで本機の温度が上がり、火災や故障となるおそれがあります。

### ■放熱のため本機の周辺は他の機器や壁等から十分間隔(10cm以上)を空ける。

### ■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

### ■火災又は感電を防止するために、屋外、雨がかかる場所及び湿気の多い場所では絶対に使用しない。

### ■サイド・パネル(側板)、トップ・プレート(天板)及びボトム・プレート(底板)は絶対に外さない。

- 内部に手などで触れると感電や故障となるおそれがあり、大変危険です。

### ■脚の交換は危険なので行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障となるおそれがあります。

### ■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損したりした場合。

\* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにしただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障となるおそれがあります。必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

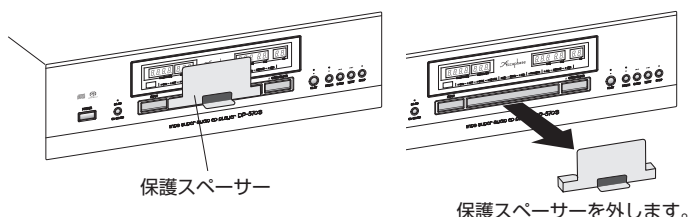
\* 万一の場合、電源プラグをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

### ■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

経年劣化による樹脂部の破損や、端子部のショートにより、感電や火災あるいは故障となるおそれがあります。  
(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

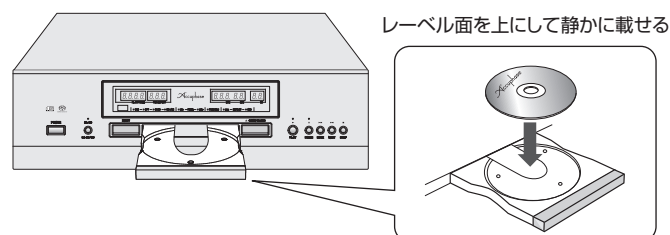
## お使いになる前に

輸送時の振動により、ディスク・トレイとパネルが傷つくのを防止するため、保護スペーサーが差し込んであります。ご使用前にこの保護スペーサーを外してください。

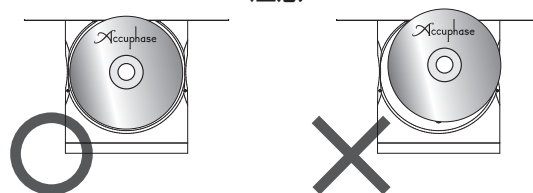


※アフターサービス等の輸送時にも使用しますので、外した保護スペーサーは保管しておいてください。

ディスクの円形のくぼみからはみ出さないように、ディスクを静かに載せてトレイを閉じます。



### 注意



くぼみからはみ出した状態でディスクを載せると、挿入口でディスクが挟み込まれ、ディスクに傷を付けるおそれがあります。



## 注意

### ◆ディスク・トレイとフロント・パネルの間に指が挟まれないように十分注意する。

ディスク・トレイ中央の穴に指を入れた状態でディスク・トレイを閉めると、フロント・パネルとディスク・トレイの間に指が挟まり、けがをするおそれがあります。

- ディスク・トレイに異物を挟まない。  
故障の原因となります。
- 次のような場所には設置しない。  
故障や事故の原因となります。
  - 通風が悪い場所
  - 湿度の高い場所
  - 埃の多い場所
  - 直射日光の当たる場所
  - 暖房器具の近くなど温度の高い場所
  - 極端に温度の低い場所
  - 振動のある場所
  - 傾斜のある場所
  - 不安定な場所
- パワーアンプなど他の機器に直接重ねて設置しない。  
故障の原因となります。
- チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。  
近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります(特に室内アンテナの場合はご注意ください)。  
アンテナ線と本機の電源コードや入・出力ケーブルを離して設置してください。
- 市販のレンズ・クリーナーを使用しない。  
故障の原因となります。本機は埃が入り難い構造になっておりますので、レンズ・クリーナーの使用は推奨しておりません。

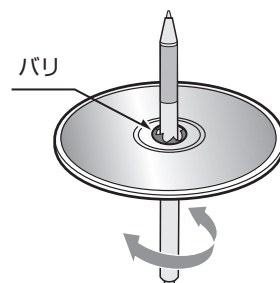
- レーザー光源をのぞき込まない。  
視力障害の原因となります。
- 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから行なう。  
特にライン・ケーブルやHS-LINKケーブルを抜き差しするときは、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損するおそれがあります。
- 電源スイッチは、各機器が正しく接続されてから入れる。  
故障の原因となります。
- 電源スイッチを切ってから、10秒以内に再びONしない。  
ノイズ発生などの原因となることがあります。
- 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。  
より安全にお使いいただけます。
- 演奏の前にボリュームを絞っておく。  
ボリュームを上げたままにしておくと、思わぬ大音量で聴覚に悪影響を与えたり、アンプやスピーカーを破損したりすることがあります。
- HS-LINKの接続には、当社製のHS-LINKケーブルを使う。  
他のケーブルを使用すると、音が途切れたり、故障したりする原因となります。
- HS-LINKはPCのLAN等に接続しない。  
LAN等に接続すると、それぞれの機器やシステムが破損するおそれがあります。
- 室温35℃以下で使用する。  
故障の原因となります。

## 快適にお使いいただくために

- CCCDの演奏は、動作・音質を保証できません。
  - コピー・コントロールCD(CCCD)など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD演奏機器による演奏の動作・音質は保証できません。
  - CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。
- 光学系ピックアップの結露について  
冬期、暖房で暖められた部屋の窓ガラスに水滴が付くように、CDプレーヤーでも以下の環境でピックアップ・レンズが結露し、本来の読み取りが行えず、正常に動作しないことがあります。
  - ストーブなどの暖房器具を点けた直後
  - 本機を湿度が非常に高い部屋に置いた場合
  - 冷房や屋外で冷えた本機を、急に暖かい部屋に持ち込んだ場合
 このような場合には、電源を入れてディスクを取り出し、1時間ほど経過すると結露は自然になくなり、正常に動作します。
- CD-Rなど表面に印刷可能な加工処理が施されているディスクについて  
本体内部に貼り付き、取り出しができなくなる事があります。
- ディスクへのラベル貼付について  
故障の原因となりますので、ディスクにはラベルを貼らないでください。

### ■ バリの残っているディスクの演奏について

ディスクのセンターホールにはバリ(右図参照)が残っていることがあります。このようなディスクは演奏しなかったり、音飛びが起きたりする場合がありますので、バリを細い棒状のもの(プラスチック製のボールペンなど)で取り除いてから演奏してください。



### ■ ディスクの取り扱いについて

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には置かないでください。
- 演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保管してください。
- レーベル面の反対側が信号読み取り面ですので、手で触れないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
- ディスクのお手入れは、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭くようにしてください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

## お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには「柔らかい布」を使用してください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してのお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。
- ディスク・トレイ内のお手入れにアルコール類を使用しないでください。アルコールで拭くとディスク・クッション(3個)が剥れディスクを傷つけるおそれがあります。

## 録音について

### SA-CDのデジタル録音

著作権保護のため、SA-CDのデジタル録音はできません。

### SA-CDのアナログ録音

本機をアナログ・プリアンプまたはプリメイン・アンプに接続後、アンプのREC端子から録音します。

### CDのデジタル録音

トランスポート出力端子のCOAXIAL/OPTICAL端子とデジタル・レコーダーを接続します(25ページ)。

- \* HS-LINKからのCDデジタル信号は録音できません。
- \* デジタル録音は、SCMS(シリアル・コピー・マネージメント・システム)により第1世代だけになります。
- \* CD-R/RWをご使用の場合には、音楽用CD-R/RWをご使用ください。

### メモ

入力切替ボタンで外部入力信号に切り替えても、本機のCDトランスポート動作は継続していますので、そのままCD録音が可能です。

### CDのアナログ録音

本機をアナログ・プリアンプまたはプリメイン・アンプに接続後、アンプのREC端子から録音します。

## 本機で演奏できないディスク

- CD-ROM
- DVD
- SA-CD-Multi
- DVD-Audio
- dts-CD
- MP-3
- Blu-ray
- 8cm CD

- ※ 誤って使用するとノイズを発生する場合があります。
- ※ CD EXTRA, CD-R/-RW, DVD-R/-RW/+R/+RWなどは録音・記録状態によっては正常な動作をしないときがあります。

### 注意

#### ■マルチチャンネルSA-CD(SA-CD-Multi)について

- 「2チャンネル+マルチチャンネル」ディスクの場合、2チャンネル・エリアは再生できますが、マルチチャンネル・エリアは再生できません。
- 2チャンネル・エリアがない、「マルチチャンネルのみのSA-CD」(規格外ディスク)が存在します。このディスクは再生できません。

# 本機で演奏できるディスク

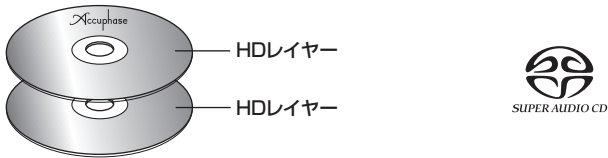
■本機で再生できるのは、SA-CDおよびCDの標準規格に合致したディスクだけになります。再生については、音楽ディスク・パッケージの表示をよくお読みください。

## SA-CD：シングルレイヤー・ディスク



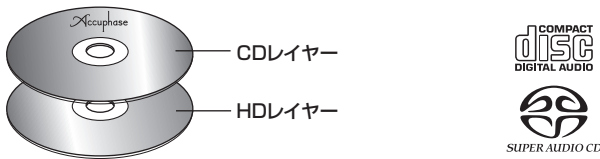
- HD (ハイデンシティ) レイヤー単層のSA-CDです。
- HDレイヤーは、SA-CD用の高密度信号層です。

## SA-CD：デュアルレイヤー・ディスク



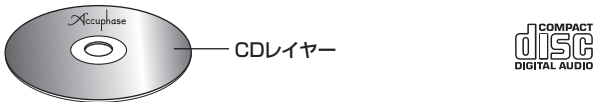
- HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能なSA-CDです。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。

## SA-CD+CD：ハイブリッド・ディスク



- HDレイヤーとCDレイヤーが2層になっているディスクです。
- ディスク挿入後、HDレイヤーが優先的に選択されます。CDレイヤーを再生する時は、SA-CD/CDボタンを押して、希望の層を選択します。
- 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。
- CDレイヤーは、通常のCDプレーヤーでも再生することができます。

## CD



- 従来フォーマットのCDです。



## データ・ディスク (DSDディスクを含む) 20ページ参照



# HS-LINKについて

HS-LINKには2つの規格 (Ver.1 / Ver.2) があります。Ver.2はサンプリング周波数とビット数を拡張したVer.1の上位規格です。HS-LINKの切り替えについては22ページをご参照ください。

HS-LINK	対 応 機 種	接続ケーブル
Ver.1	HS-LINK を搭載した全ての機種 (下記 Ver.2 対応機種を含む)	HS-LINK ケーブル
Ver.2	DP-1000 / DC-1000 / DP-950 / DC-950 / DP-770 / DP-750 / DP-570S / DP-570 / DP-560 / DC-37 / DF-75 / DF-65 / DG-68 (2025年11月現在)	

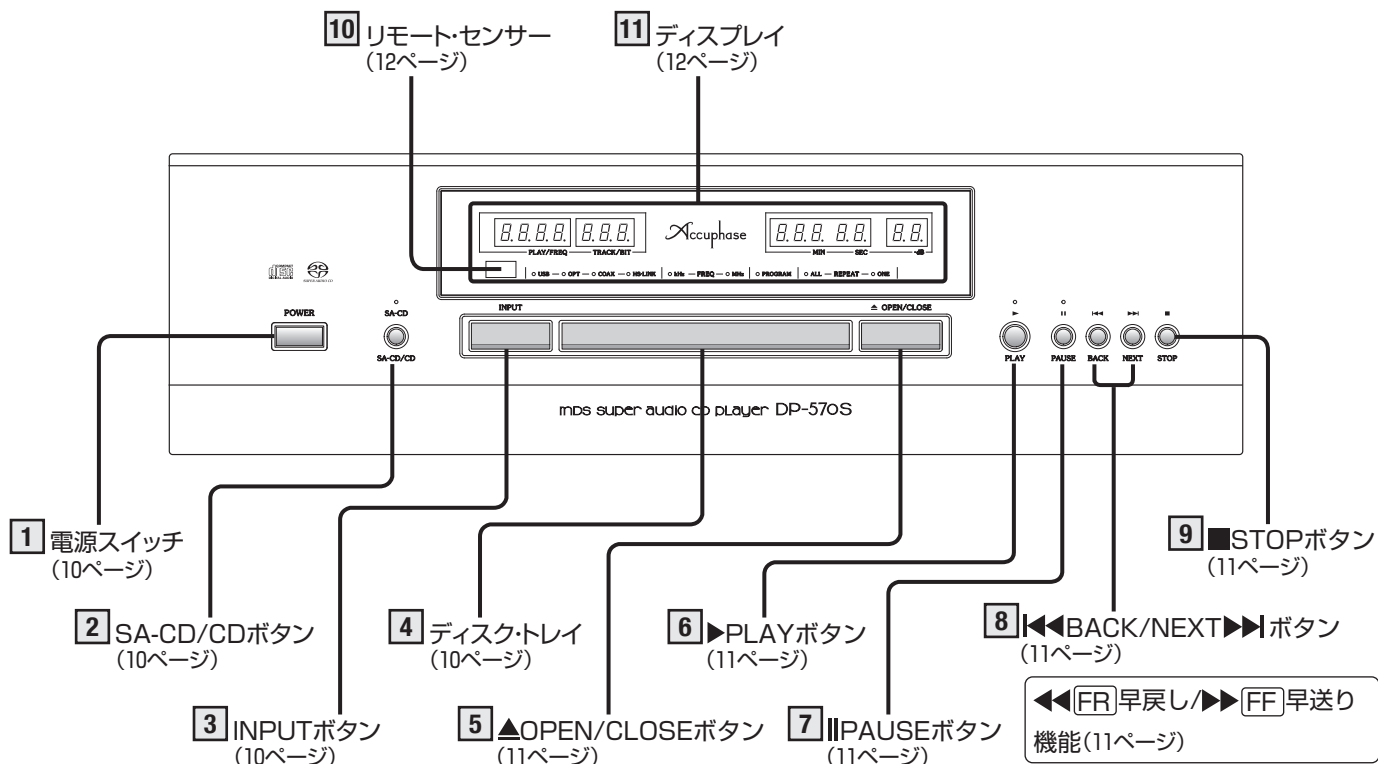
HS-LINK	フォーマット (2ch)	サンプリング周波数	ビット数
Ver.1	DSD	2.8MHz	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16 ~ 24
Ver.2	DSD	2.8 / 5.6MHz	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16 ~ 32

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。

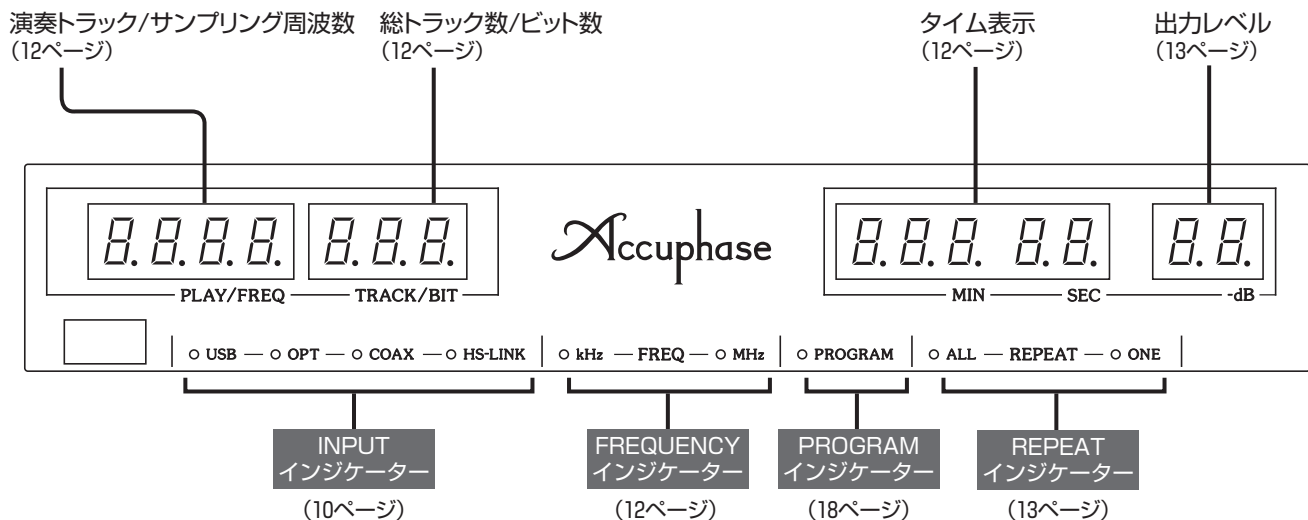
## 2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目( )内のページを参照してください。

### フロント・パネル



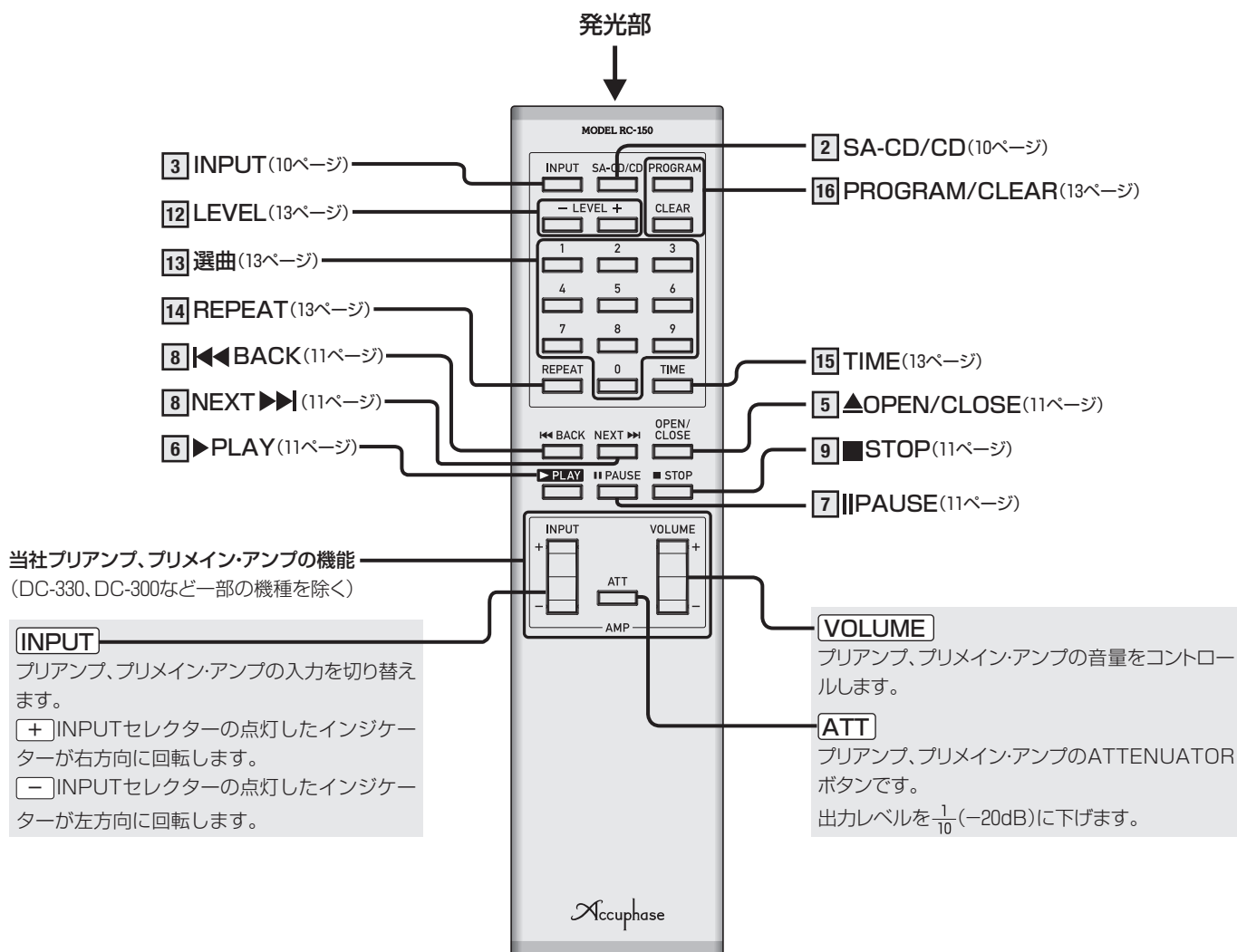
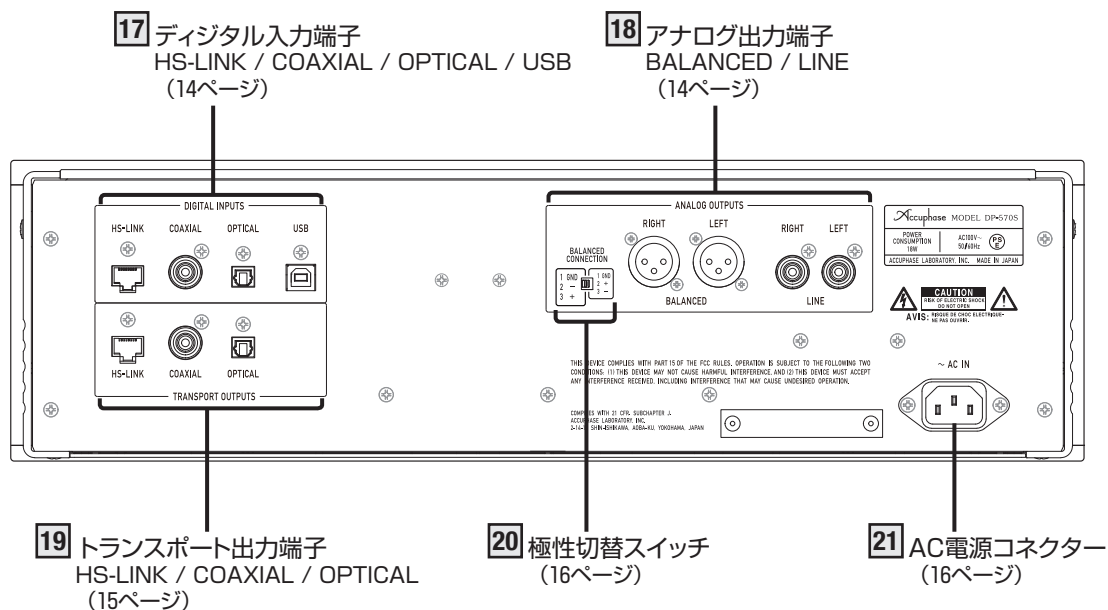
### 11 ディスプレイ





**リモート・コマンダー RC-150の機能**

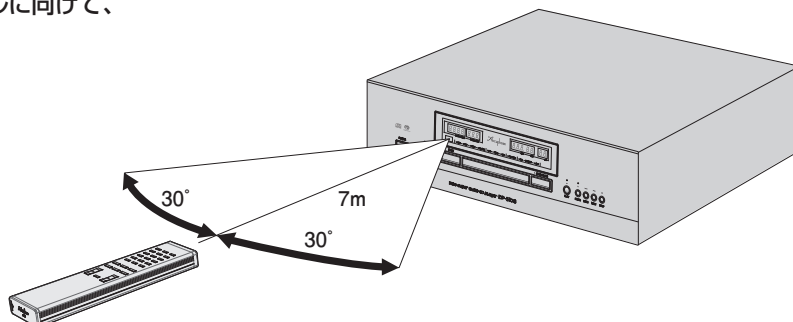
(使用方法は9ページ参照)

各部の  
名前**リア・パネル**



## 4. リモート・コマンダーのご使用方法

リモート・コマンダーの発光部を本機のフロント・パネルに向けて、右図の範囲内でご使用ください。



接  
続  
図

リモートコマンダー  
のご使用方法



### 警告

- 電池ケースの電極部に金属類を接触させない。
- 乾電池を充電しない。
- 乾電池を逆向きに入れない。
- 古い乾電池と新しい乾電池を混用しない。
- メーカー、種類、型番の異なる乾電池を混用しない。
- 使い切った乾電池を入れたままにしない。
- 乾電池を火に投入したり、加熱したりしない。
- 乾電池を炎天下や暖房器具のそばなど、極端に温度が高くなるところに放置しない。
- 乾電池を押し潰したり、切断したりしない。

乾電池の破裂、発火、発熱、液漏れ、ガスの発生、故障、劣化により、火災やけがの原因となります。



### 注意

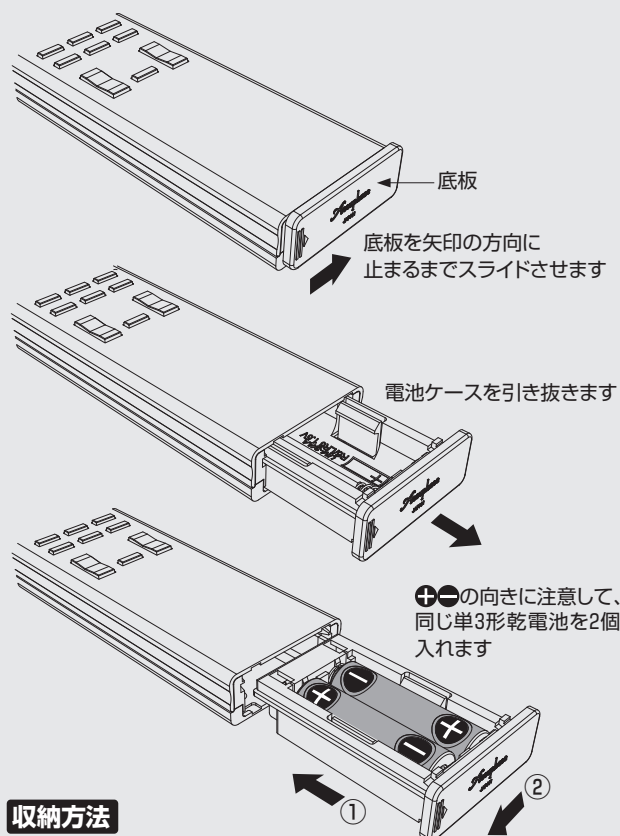
- 乾電池を廃棄する場合は、法律、条例などで定められた方法にしたがってください。
- 長期間にリモート・コマンダーを使わないときは、乾電池を抜いてください。
- リモート・コマンダーを落下させないでください。
- リモート・コマンダーに液体をこぼさないでください。
- 乾電池が液漏れしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。
- 乾電池から漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

### メモ

- 操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期です。
- テレビやインバーター照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離したりしてお使いください。

### 乾電池の入れ方

新品の同じ2個の乾電池を、向きに注意しながら入れてください。



### 収納方法

- ① 電池ケースを奥まで挿入します
- ② 底板を矢印方向にスライドさせて固定します

## 5. 各部の動作説明

- 詳しい使用方法是( )内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

### フロント・パネル

#### 1 電源スイッチ



電源をON/OFFするためのスイッチです。

##### メモ

- 電源を入れると左側のディスプレイが点滅し、約10秒間内部のセットアップを行います。
- 電源が入ると同時に演奏を開始するパワー・オン・プレイについては、22ページをご参照ください。

### 注意

電源を切った後、10秒以内に再び電源を入れないでください。ノイズ発生などの原因となります。

#### 2 SA-CD/CDボタン

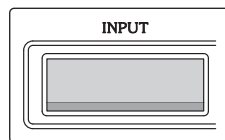
演奏	SA-CD
SA-CD(優先)	点灯
CD	消灯

SA-CDとCDが記録されたハイブリッド・ディスクを挿入した場合に、SA-CDとCDを切り替えるためのボタンです。SA-CD選択時にはインジケータが点灯します。

##### メモ

ハイブリッド・ディスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SA-CDを優先して演奏します。</li> <li>● CDを演奏したいときは、ボタンを押してインジケータを消灯させます。</li> <li>● 演奏中や一時停止中に切り替えると、その曲の先頭から演奏します。</li> <li>● ディスク挿入直後のTOC(ディスク情報)読み込み時には、切り替えができません。</li> </ul>
SA-CD専用ディスク	演奏中にこのボタンを押すと、演奏を中止してSTOP状態になります。
CD専用ディスク	このボタンは無効になります。

#### 3 INPUTボタン



##### INPUTインジケータ

○ USB — ○ OPT — ○ COAX — ○ HS-LINK

本機は[17]デジタル入力端子(USB、OPTICAL、COAXIAL、HS-LINK)に入力した外部入力信号をアナログ信号へ変換し、[18]アナログ出力端子から出力することができます。このボタンはSA-CD/CDの演奏から外部入力信号に切り替えるためのボタンです。

INPUTインジケータを確認しながら入力信号を選択します。インジケータが全て消灯していればSA-CD/CDを演奏します。

選択した入力に関係なく、[19]トランスポート出力からは常にSA-CDまたはCDの信号を出力します。

#### 4 ディスク・トレイ

##### トレイを開く

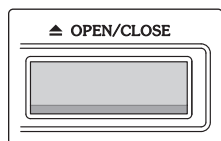
- [5] OPEN/CLOSE ボタンを押すと開きます。

##### トレイを閉じる

- [5] OPEN/CLOSE ボタンを押すと閉じます。ディスクがある場合は停止(STOP)状態になります。
- ディスク・トレイ前面を軽く押すと閉じます。ディスクがある場合は自動的に演奏を開始します。
- [6] PLAY ボタンを押すと自動的に閉じます。ディスクがある場合は演奏を開始(PLAY)します。
- [7] PAUSE ボタンを押すと自動的に閉じます。ディスクがある場合は1曲目の演奏開始待ち(PAUSE)状態になります。

**注意：**トレイを出した状態で電源をOFFした場合、再び電源を入れるとトレイが閉まりますのでディスクを挟まないようにご注意ください。

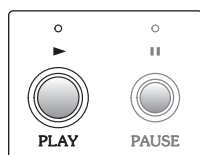


**5 ▲OPEN/CLOSEボタン**

ディスク・トレイを開閉させるためのボタンです。

**メモ**

演奏中に押すと演奏を中止して、トレイを開きます。

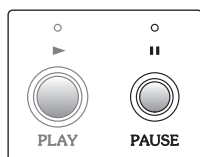
**6 ▶PLAYボタン**

動作	インジケーター	
	○ PLAY	○ PAUSE
停止中	消灯	消灯
演奏中	点灯	消灯
一時停止中	点灯	点灯

演奏を開始させるためのボタンです。  
一時停止中に押すと演奏を再開します。

**メモ**

- 一時停止中はPAUSEと一緒に点灯します。
- ディスク・トレイが開いている場合は、ディスク・トレイを押しても演奏を開始します。

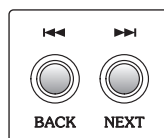
**7 ||PAUSEボタン**

動作	インジケーター	
	○ PLAY	○ PAUSE
停止中	消灯	消灯
演奏中	点灯	消灯
一時停止中	点灯	点灯

演奏を一時停止させるためのボタンです。  
一時停止中に押すと演奏を再開します。

**メモ**

- 停止中に**||PAUSE**ボタンを押すと、1曲目の先頭で一時停止します。
- ディスク・トレイが開いた状態で**||PAUSE**ボタンを押すと、トレイを閉じて1曲目の先頭で一時停止します。

**8 ◀◀BACK/NEXT▶▶ボタン**

演奏トラックを変更したり、早戻し(◀◀FR)/早送り(▶▶FF)をしたりするためのボタンです。

**◀◀BACKボタン**

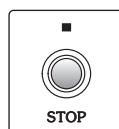
操作	動作
1回押す	トラックの先頭へ戻ります。
2回以上押す	順次、前のトラックの先頭へ戻ります。
押し続ける	演奏している曲内での 早戻し(◀◀FR)となります。 演奏音が断続的に聴こえますので、希望の部分に近づいたらボタンを離します。

**NEXT▶▶ボタン**

操作	動作
1回押す	次のトラックの先頭へ進みます。
2回以上押す	順次、次のトラックの先頭へ進みます。
押し続ける	演奏している曲内での 早送り(▶▶FF)となります。 演奏音が断続的に聴こえますので、希望の部分に近づいたらボタンを離します。

**メモ**

- 停止中や一時停止中は、早戻し(◀◀FR)/早送り(▶▶FF)はできません。
- トラックをまたいでの早戻し(◀◀FR)/早送り(▶▶FF)はできません。
- 一時停止中に**◀◀BACK**/**NEXT▶▶**ボタンを押すと、指定した曲の先頭で一時停止状態になります。

**9 ■STOPボタン**

演奏を停止させるためのボタンです。

## 10 リモート・センサー

リモート・コマンダーの受光部です。

リモート・コマンダーのご使用方法については9ページをご参照ください。



リモート・センサー

## 11 ディスプレイ

演奏曲に関する情報を表示します。

リモート・コマンダーの[15] [TIME] ボタンを押すたびに、表示を順番に切り替えます。

### 停止中の表示

表示	表示例
1 総トラック数 全演奏時間	<div>0 8 50 25 0</div> <div>PLAY/FREQ TRACK/BIT MIN SEC ~dB</div> <div>総トラック数 全演奏時間 出力レベル</div>
2 サンプル周波数 /ビット数	<div>2.8 1</div> <div>PLAY/FREQ TRACK/BIT</div> <div>サンプル周波数 ビット数</div>

### 演奏中の表示

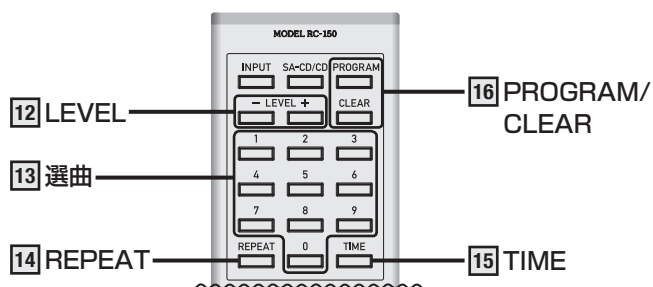
表示	表示例
1 曲中経過時間	<div>4 8 5 18 0</div> <div>PLAY/FREQ TRACK/BIT MIN SEC ~dB</div> <div>全8曲中4曲目の5分18秒を演奏中</div>
2 曲中残り時間	<div>4 8 - 1 03 0</div> <div>PLAY/FREQ TRACK/BIT MIN SEC ~dB</div> <div>4曲目の終わりまで残り1分3秒</div>
3 トータル経過時間	<div>8 23 08 0</div> <div>PLAY/FREQ TRACK/BIT MIN SEC ~dB</div> <div>最初から23分8秒を演奏中</div>
4 トータル残り時間	<div>8 - 27 17 0</div> <div>PLAY/FREQ TRACK/BIT MIN SEC ~dB</div> <div>全曲の終わりまで残り27分17秒</div>
5 サンプル周波数 /ビット数	<div>2.8 1</div> <div>PLAY/FREQ TRACK/BIT MIN SEC ~dB</div> <div>SA-CD演奏時</div>

### サンプリング周波数 / ビット数の表示値

入力	サンプリング周波数	ビット数
PCM	<div>32.0 44.1 48.0</div> <div>PLAY/FREQ PLAY/FREQ PLAY/FREQ</div> <div>88.2 96.0 176.4</div> <div>PLAY/FREQ PLAY/FREQ PLAY/FREQ</div> <div>192.0 352.8 384.0</div> <div>PLAY/FREQ PLAY/FREQ PLAY/FREQ</div> <div>点灯 消灯</div> <div>kHz — FREQ — MHz</div> <div>FREQUENCYインジケーター</div>	<div>0 16</div> <div>TRACK/BIT TRACK/BIT</div> <div>24 32</div> <div>TRACK/BIT TRACK/BIT</div>
DSD	<div>2.8 5.6</div> <div>PLAY/FREQ PLAY/FREQ</div> <div>11.2 22.5</div> <div>PLAY/FREQ PLAY/FREQ</div> <div>消灯 点灯</div> <div>kHz — FREQ — MHz</div> <div>FREQUENCYインジケーター</div>	<div>1</div> <div>TRACK/BIT</div>
なし	<div>--</div> <div>PLAY/FREQ</div> <div>消灯 消灯</div> <div>kHz — FREQ — MHz</div> <div>FREQUENCYインジケーター</div>	<div>-</div> <div>TRACK/BIT</div>

### メモ

- データ・ディスクの場合には「曲中経過時間」及び「サンプリング周波数/ビット数」のみ表示します。
- プログラム演奏中の表示切り替えについては、19ページをご参照ください。
- 出力レベルの表示については、[12] [LEVEL] ボタン(13ページ)をご参照ください。
- テキスト情報の表示はできません。

**リモート・コマンダー RC-150****12 LEVELボタン**

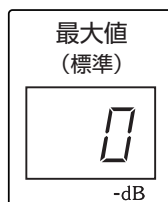
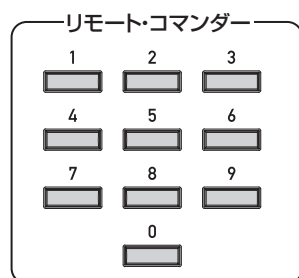
アナログ出力信号の出力レベルを調整するためのボタンです。

0dB～-80dBの調整が可能です。

通常は0dB(標準)で使します。

出力レベルを絞り切ることにはできません。

他のプレーヤーと出力レベルを揃えたい時などにご使用いただけます。

**13 選曲ボタン**

トラック番号を選択するためのボタンです。

トラック番号を入力すると、指定したトラック番号が10秒間点滅しますので、点滅中に **▶PLAY** ボタンを押します。

(操作例)

5曲目の演奏

5 → **▶PLAY**

15曲目の演奏

1 → 5 → **▶PLAY**

115曲目の演奏

1 → 1 → 5 → **▶PLAY**

トラック番号を入力した後に、トラック番号を解除したい場合には、以下に示した何れかの方法で指定が解除されます。

- 10秒間放置する
- **■STOP** ボタンを押す

**メモ**

- 演奏または停止中に選曲ボタンと **||PAUSE** ボタンを押すと、指定したトラックの先頭で一時停止状態になります。
- 一時停止中に選曲ボタンと **▶PLAY** ボタンを押すと、指定したトラックの先頭から演奏を開始します。
- **◀◀BACK** / **NEXT▶▶** ボタンを使って、任意のトラックを選択することも可能です。
- 選曲可能なトラック番号の最大値は以下の通りです。  
SA-CD : 255トラック  
CD : 99トラック

**14 REPEATボタン**

全曲と1曲のリPEAT演奏に切り替えるためのボタンです。

REPEATインジケーター

○ ALL — REPEAT — ○ ONE

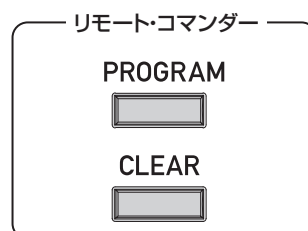
リモート・コマンダーの **REPEAT** ボタンを押すたびに、演奏を1～3の順番で切り替えます。

演奏		インジケーター	
		○ ALL	○ ONE
1	リピートOFF	消灯	消灯
2	全曲リピート	点灯	消灯
3	1曲リピート	消灯	点灯

**15 TIMEボタン**

時間表示を変更するためのボタンです。

表示については **11** ディスプレイ (12ページ) をご参照ください。

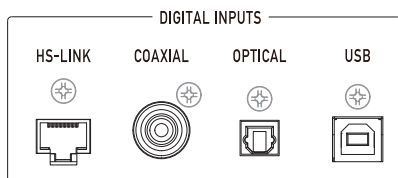
**16 PROGRAM/CLEARボタン**

プログラム演奏を行うためのボタンです。

プログラム演奏については18ページをご参照ください。

## リア・パネル

### 17 デジタル入力端子



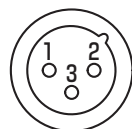
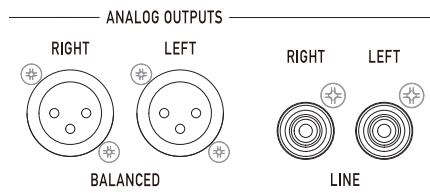
デジタル信号の入力端子です。デジタル機器を接続します。

#### 接続ケーブル

入力端子	ケーブル
HS-LINK	HS-LINKケーブル
COAXIAL	75Ω同軸デジタルケーブル
OPTICAL	光ファイバーケーブル(JEITA規格)
USB*1	USB2.0タイプBコネクタ付ケーブル(2m以内)

### 18 アナログ出力端子

アナログ信号を出力するためのバランス/ライン出力端子です。



1	GND
2	-
3	+

バランス出力端子のピンの極性

**メモ** バランス出力端子の極性は、**20** 極性切替スイッチ (16ページ) で切り替えることができます。  
当社製バランスケーブルをご用意しています。

#### 入力可能なサンプリング周波数とビット数

入力信号			サンプリング 周波数	ビット数
HS-LINK	Ver.2	DSD	2.8 / 5.6 MHz	1
		PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384 kHz	16～32
	Ver.1	DSD	2.8 MHz	1
		PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 kHz	16～24
COAXIAL			32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 kHz	16～24
OPTICAL			32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 kHz	16～24
USB		DSD	2.8 / 5.6 / 11.2 / 22.5 MHz (DoPは11.2 MHz以下)	1
		PCM	44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384 kHz	16～32

\*1

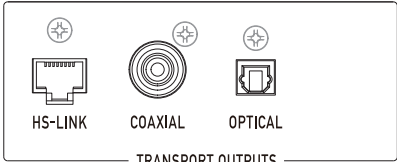
#### 注意

- 本機とWindows PCをUSBケーブルで接続する場合には、PCと接続する前に、本機に付属するUSBドライバー4・ソフトウェアをPCにインストールする必要があります。詳しくは別冊のUSBドライバー4・セットアップガイドを参照してください。Macの場合には、インストールは必要ありません。
- 最新のUSBドライバー4・ソフトウェアは当社ホームページ <https://www.accuphase.co.jp/> 上でご案内いたします。
- USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。
- USBケーブルは2m以内を推奨します。



# 19 トランスポート出力端子

本機のSA-CD/CDトランスポート部のデジタル信号を出力するための端子です。



## HS-LINK

SA-CD/CD/データ・ディスク(DSDディスクを含む)の信号を出力するデジタル出力端子です。

HS-LINKを装備しているデジタル・プロセッサー等と、必ず別売の当社製HS-LINKケーブル(27ページ)で接続します。

ハイブリッド・ディスク挿入時には、**SA-CD/CD** ボタンで選択したSA-CDまたはCDのデジタル信号を出力します。

演奏ディスク		信号出力
SA-CD		—
CD		○
データ・ディスク	DSD	—
	PCM	○

### メモ

出力フォーマットの初期設定はHS-LINK Ver.2です(27ページ参照)。

接続機器(27ページ)に応じて、出力フォーマットをHS-LINK Ver.1に切り替えることができます(22ページ参照)。

## COAXIAL(同軸)

CD/データ・ディスクの信号を出力するデジタル出力端子です。

75Ω同軸ケーブルでデジタル・プロセッサー等と接続します。

演奏ディスク		信号出力
SA-CD		—
CD		○
データ・ディスク	DSD	—
	PCM	○

## OPTICAL(光)

CD/データ・ディスクの信号を出力するデジタル出力端子です。

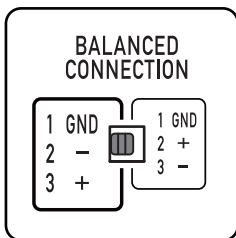
光ファイバー・ケーブルでデジタル・プロセッサー等と接続します。

演奏ディスク		信号出力
SA-CD		—
CD		○
データ・ディスク	DSD	—
	PCM	○

### 注意

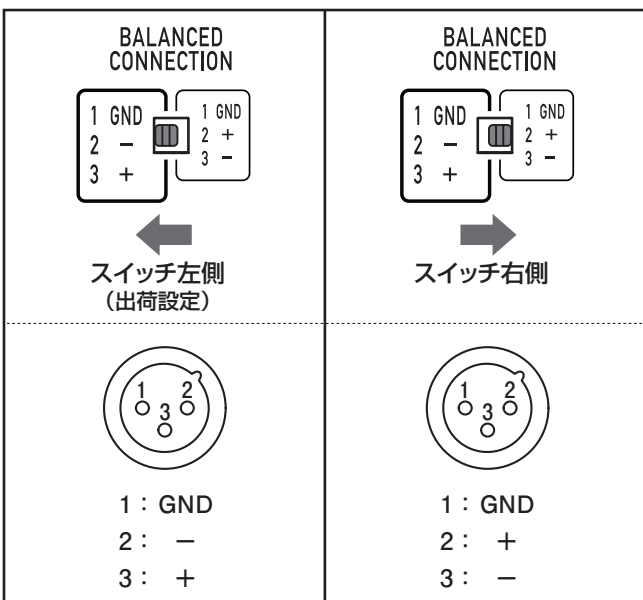
- SA-CDデジタル信号は、トランスポート出力端子のHS-LINKのみから出力され、COAXIAL/OPTICAL端子からは出力されません。
- 3** INPUT ボタンで、外部入力信号(USB、OPT、COAX、HS-LINK)に切り替えても、**19** トランスポート出力端子からは常に演奏ディスクの信号を出力します。

## 20 極性切替スイッチ



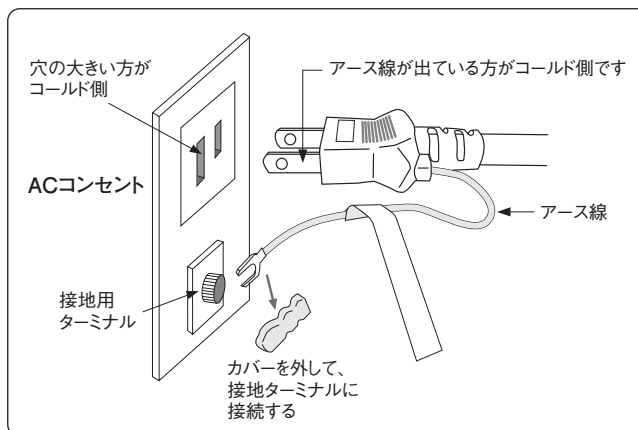
18 アナログ・バランス出力端子の極性を切り替えるためのスイッチです。

当社製品（一部のプロ機器を除く）と接続する場合は、スイッチを左側（出荷設定）のままでご使用ください。接続する機器の極性が本機と異なる場合は、スイッチを右側にしてください。ただし、極性は必ずしも合わせる必要はありません。合わせなくても演奏は可能です。



## 21 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



### 警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

#### ■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

#### ■アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

#### ■入・出力端子や、AC電源コネクター、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり、端子部がショートをおこしたりして、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。  
(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)

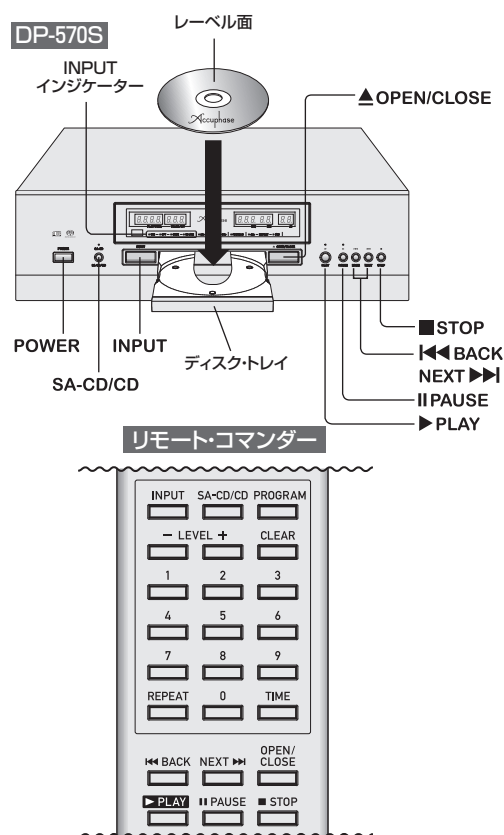
### メモ

- 本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。
- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側（穴が右に比べて大きい）がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位を逆に表示することがあります。

## 6. ご使用方法

### 6.1 基本的な演奏

- 1 電源スイッチを押し、電源を入れます。
- 2 INPUTインジケータにUSB, OPT, COAX, HS-LINKのLEDが点灯している場合には、表示が消えるまで **INPUT** ボタンを押します(10ページ参照)。
- 3 **▲OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを開きます。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをディスク・トレイに置きます。
- 5 **▲OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを閉じます。
- 6 **▶PLAY** ボタンを押すと、第1曲目から演奏を開始します。
- 7 **■STOP** ボタンを押すか、最終トラックの演奏が終了すると、演奏を停止します。
- 8 **▲OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを開き、ディスクを取り出します。
- 9 再び **▲OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイは必ず閉じておきます。

各部の  
動作説明

ご使用方法

### 6.2 基本的な操作方法

機能	操作方法
SA-CD/CDの切り替え	SA-CDとCDは <b>SA-CD/CD</b> ボタンで切り替えます。 詳しい操作方法については、 <b>2</b> <b>SA-CD/CD</b> ボタンの動作説明をご覧ください(10ページ)。
演奏の一時停止	演奏中に <b>  PAUSE</b> ボタンを押すと、演奏を一時停止します。
一時停止中からの演奏	一時停止中に <b>▶PLAY</b> ボタンまたは <b>  PAUSE</b> ボタンを押すと演奏を再開します。
演奏トラックの指定	演奏トラックは、 <b>◀◀BACK</b> / <b>NEXT▶▶</b> ボタンや <b>選曲</b> ボタンで指定します。 詳しい操作方法については、それぞれのボタンの動作説明をご覧ください( <b>8</b> <b>◀◀BACK</b> / <b>NEXT▶▶</b> ボタン：11ページ、 <b>13</b> <b>選曲</b> ボタン：13ページ)。
FR早戻し/FF早送り	<b>◀◀BACK</b> / <b>NEXT▶▶</b> ボタンを長押しすると、FR早戻し/FF早送りとなります。 詳しい操作方法については、 <b>8</b> <b>◀◀BACK</b> / <b>NEXT▶▶</b> ボタンの動作説明をご覧ください(11ページ)。
表示の変更	リモート・コマンダーの <b>TIME</b> ボタンで表示を変更することが可能です。 詳しい操作方法については、 <b>11</b> ディスプレイの動作説明をご覧ください(12ページ)。
リピート演奏	リモート・コマンダーの <b>REPEAT</b> ボタンで全曲と1曲のリピート演奏が可能です。 詳しい操作方法については、 <b>14</b> <b>REPEAT</b> ボタンの動作説明をご覧ください(13ページ)。
プログラム演奏	リモート・コマンダーの <b>PROGRAM</b> ボタンと <b>CLEAR</b> ボタンでプログラム演奏が可能です。 詳しい操作方法については、『プログラム演奏』をご覧ください(18ページ)。

## 6.3 プログラム演奏

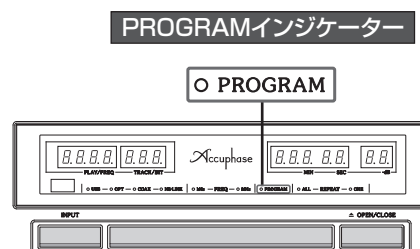
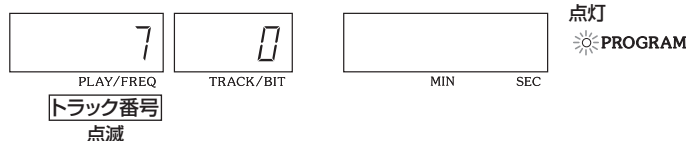
プログラム機能を使えば、最大20曲までお好みの順番で演奏をお楽しみいただけます。  
プログラム演奏の操作は、全てリモート・コマンダーで行います。

### プログラム演奏を行うには

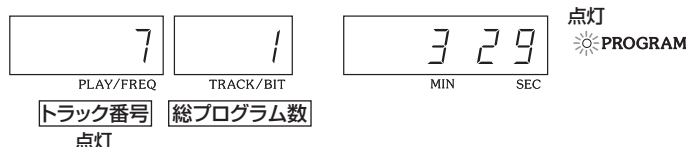
**1** STOP状態中に**PROGRAM**ボタンを長押し(2秒以上)すると、**PROGRAM** インジケーターが点灯しプログラム演奏の操作が可能な状態になります。

**2** 演奏したいトラックの**選曲**ボタンを押します。ディスプレイ上では、選択したトラック番号が点滅します。

**選曲**ボタンを押し間違えたときは、**STOP**ボタンを押すことで再入力が可能です。



**3** **PROGRAM**ボタンを押すと、点滅していたトラック番号が点灯に変わり記憶されます。ディスプレイ上には、トラック番号、総プログラム数、総演奏時間が表示されます。

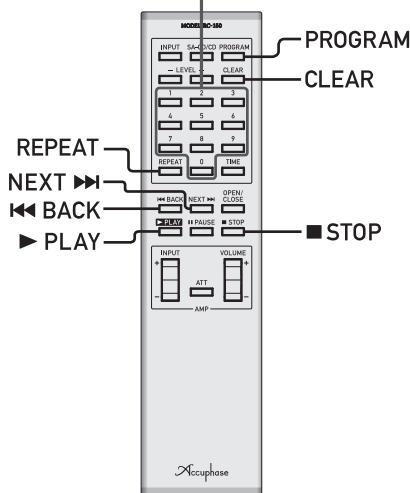


**4** プログラム演奏に、さらにトラックを追加したい場合には、上記2項と3項を繰り返します。

**5** **▶PLAY**ボタンを押すとプログラムした順番で演奏が始まります。

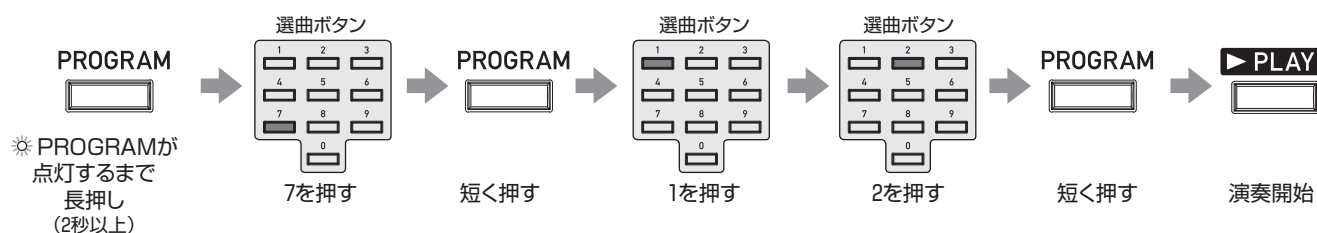
#### メモ

- プログラムした内容を変更したい場合は、**CLEAR**ボタンで最後の曲から順番に削除を行い、再び入力します。
- プログラム演奏中に**◀◀BACK**/**NEXT▶▶**ボタンを押すと、プログラムの内容に従ってトラックを移動します。
- プログラム演奏中に**選曲**ボタンは機能しません。
- プログラム演奏中も**REPEAT**ボタンで、プログラムした全曲のリピート演奏が可能です。1曲のリピート演奏はできません。
- ハイブリッド・ディスクによるSA-CDとCDが混在したプログラム演奏はできません。**PROGRAM** インジケーターが消灯している状態でSA-CDかCDを選択してください。
- データ・ディスク(DSDディスクを含む)はプログラム演奏ができません。



#### (操作例)

##### 7曲目 → 12曲目のプログラム演奏

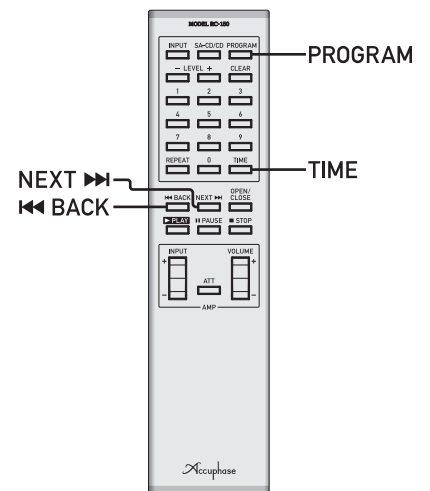
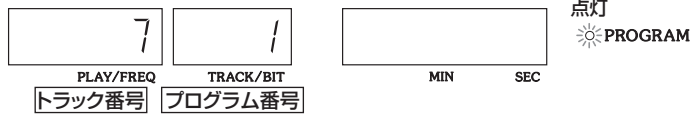




**プログラムの内容を確認するには**

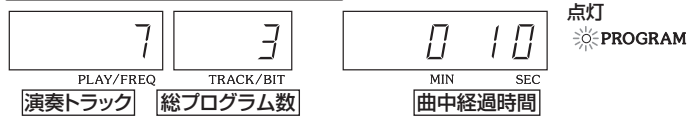
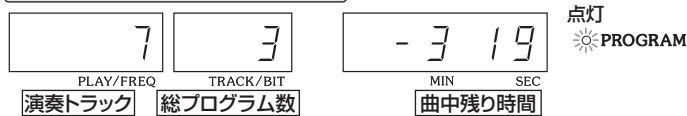
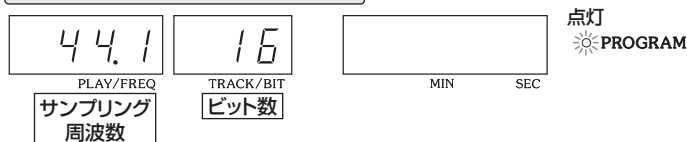
**PROGRAM** インジケーターが点灯していてSTOP状態であれば、

◀◀BACK / NEXT▶▶ ボタンを押すことで、プログラムの内容を確認できます。

**表示を切り替えるには**

演奏中に**TIME** ボタンを押すと、以下のように表示が切り替わります。

トータル経過時間及びトータル残り時間の表示はできません。

**演奏中のトラックの経過時間****演奏中のトラックの残り時間****サンプリング周波数とビット数****通常の演奏に戻すには**

下記いずれかの方法で、通常の演奏に戻ります。プログラムの内容は全て削除されます。

- STOP状態中に**PROGRAM** ボタンを長押し(2秒)して**PROGRAM** インジケーターを消灯させる。
- ディスクトレイをOPENする。
- 本機の電源を切る。

**注意**

削除したプログラムの内容を再び呼び出すことはできません。プログラムの内容を再び入力する必要があります。

## 6.4 データ・ディスクの演奏

### 演奏できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	ビット数	演奏できるディスクの種類			拡張子
			CD-R CD-RW	DVD-R DVD-RW	DVD+R DVD+RW	
WAV	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16 / 24ビット	○*1	○	○	.wav
FLAC	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16 / 24ビット	○*1	○	○	.flac
DSD	2.8 / 5.6MHz	1ビット	—	○	○	.dff / .dsf

\*1 この項目は、演奏できるファイルのサンプリング周波数が32/44.1/48kHzのみとなります。

- ご使用になるディスクや記録状態により、演奏できない場合があります。
- ファイナライズされていないディスクは演奏できません。

### 演奏可能な最大ファイル数とフォルダ数

最大フォルダ数：1,000個

1つのフォルダに含まれる最大ファイル数：2,000個

認識可能フォルダ階層数・8階層まで

- ファイルには必ず拡張子を付けてください。拡張子を付けないファイルは演奏できません。
- 個人が録音したものは、個人として楽しむ以外では著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 本機は、著作権保護のかかっている音楽ファイルのみを演奏できます。
- インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。
- 演奏可能な最大ファイル数とフォルダ数は、ファイルおよびフォルダ名の長さやフォルダの階層数などの条件により変わります。

### ファイルの演奏順番について

音楽ファイルを記録しているフォルダが複数ある場合、本機がメディアを読み取るときに自動的に各フォルダの演奏順番を設定します。

#### DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RW

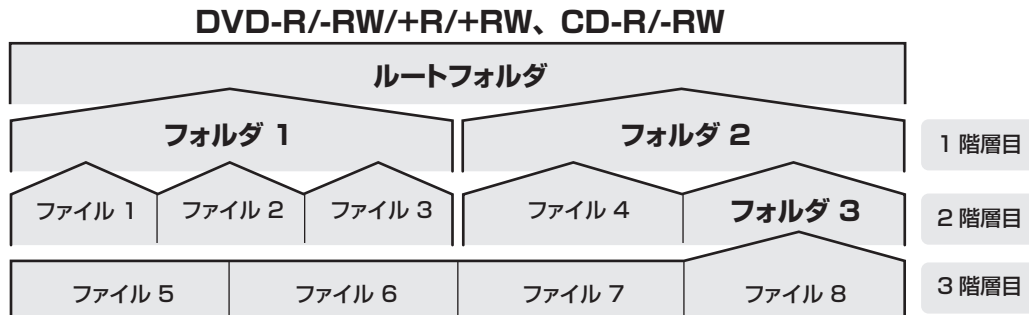
DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RWに記録しているファイルは、第一階層の最初のフォルダにあるファイルを演奏したあとに、第一階層の別のフォルダ・・・の後に第二階層の最初のフォルダ・・・第三階層のフォルダ・・・の順番に演奏します。

#### メモ

- PC上で表示される順番と実際に演奏する順番が異なる場合があります。
- DVD-R/-RW/+R/+RWおよびCD-R/-RWのライティングソフトによっては、演奏する順番が変わる場合があります。

## フォルダとファイルの構成

DVD-R/-RW/+R/+RW、CD-R/-RWに記録された音楽ファイルは、いくつかの大きな区切り(フォルダ)と小さな区切り(ファイル)に分けられています。ファイルはフォルダに、フォルダはいくつかの階層に分けて記録させることができます。本機は8階層まで認識できます。



### メモ

- 音楽ファイルをCD-R/-RWに書き込む場合、ライティングソフトのフォーマットは「ISO9660」で行なってください。他のフォーマットで記録された場合、正しく演奏できないことがあります。詳しくは、ご使用のライティングソフトの説明書をご覧ください。

## ファイルの演奏例

ファイル、フォルダはASCII順(アルファベット順)に並べかえられ、

ルートフォルダ ⇒ 第1階層フォルダ ⇒ 第2階層フォルダ ⇒ ……

と検索して行きます。

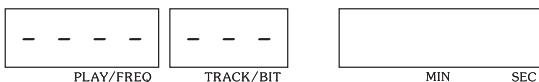
上の図の場合、ルートフォルダにファイルがないので、フォルダ1のファイル1が最初に演奏されます。

結果として

ファイル1 ⇒ ファイル2 ⇒ ファイル3 ⇒ ファイル4 …… ファイル8

の順になります。

- 本機で対応していないファイルを演奏しようとするとき「- - - - -」と点滅表示され、自動的に次の曲へジャンプします。NEXTまたはBACKで対応していないファイルを指定した場合は、NEXT時は次の曲に、BACK時は前の曲にジャンプします。

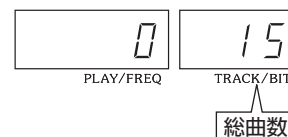


## 演奏方法について

データ・ディスクの演奏はSA-CDやCDと同様に行えます。**REPEAT** ボタンで全曲と1曲のリPEAT演奏も可能です。ただし、以下の操作はできません。

- リモート・コマンダーの**選曲** ボタンおよびフォルダの選択
- SA-CD/CDの切り換え
- 曲中残り時間、トータル経過時間及びトータル残り時間の表示
- フォルダごとのリPEAT演奏
- NEXTやBACKの連打によるトラック・ジャンプ
- プログラム演奏

TRACK/BITのディスプレイには、総曲数(演奏不可ファイルも含めた音楽ファイルの数)が表示されます。



## DSDディスクについて

DSDディスク:「DSD\_DISC」という名前のフォルダにDSFフォーマットのファイルを入れたディスクです。

PCなどで作成したDVD-R/-RW/+R/+RWディスクが演奏可能です。

## 6.5 HS-LINKバージョンの変更方法

HS-LINK出力のバージョン(HS-L)を設定します。Ver.2に対応しない機器を接続する場合にVer.1に設定します。HS-LINKのバージョンについては27ページをご参照ください。操作は停止中に行います。リモート・コマンダーでは操作できません。

操作手順		操作後の表示		*:出荷設定
①	■STOPを“2秒以上”長押しする	HS-L		通常の動作から設定モードへ入ります。
②	▶PLAYを短く押す	HS-L	2 または 1	現在の設定(1または2*)が表示されます。
③	◀◀BACKまたはNEXT▶▶を短く押す	HS-L	1 ↕ 2	変更後の設定(1または2*)を表示させます。
④	▶PLAYを短く押すと設定を実行します ■STOPを短く押すと設定をキャンセルします	HS-L		設定が実行またはキャンセルされます。
⑤	NEXT▶▶を4回短く押す	End		HS-L → PonP → AutP → Ini → End の順番で表示が変わります。
⑥	▶PLAYを短く押す			設定モードを抜けて通常の動作に戻ります。

\*操作を誤るなどして、最初からやり直したい時には、電源を入れ直します。

## 6.6 パワー・オン・プレイの設定方法

パワー・オン・プレイ(PonP)をONに設定すると、電源が入ると同時に演奏を開始します。市販のタイマーと組み合わせることで、好みの時間に演奏を開始することができます。操作は停止中に行います。リモート・コマンダーでは操作できません。

操作手順		操作後の表示		*:出荷設定
①	■STOPを“2秒以上”長押しする	HS-L		通常の動作から設定モードへ入ります。
②	NEXT▶▶を短く押す	PonP		HS-L → PonPの順番で表示が変わります。
③	▶PLAYを短く押す	PonP	OFF または On	現在の設定(OFF*またはOn)が表示されます。
④	◀◀BACKまたはNEXT▶▶を短く押す	PonP	On ↕ OFF	変更後の設定(OFF*またはOn)を表示させます。
⑤	▶PLAYを短く押すと設定を実行します ■STOPを短く押すと設定をキャンセルします	PonP		設定が実行またはキャンセルされます。
⑥	NEXT▶▶を3回短く押す	End		PonP→AutP→Ini→Endの順番で表示が変わります。
⑦	▶PLAYを短く押す			設定モードを抜けて通常の動作に戻ります。

\*操作を誤るなどして、最初からやり直したい時には、電源を入れ直します。

# 6.7 オート・ポーズの設定方法

演奏開始時、接続機器がロックインするタイミングより早く本機が演奏を始めてしまうと、曲の先頭部分が演奏されない現象が起こります。オート・ポーズ(AutP)は本機が演奏を開始するタイミングを遅らせることで、この現象を防ぐ機能です。遅延時間は最大5秒まで設定可能です。操作は停止中に行います。リモート・コマンダーでは操作できません。

操作手順		操作後の表示		*:出荷設定
①	■STOPを“2秒以上”長押しする	HS-L		通常の動作から設定モードへ入ります。
②	NEXT▶▶を2回短く押す	AutP		HS-L → PonP → AutP の順番で表示が変わります。
③	▶PLAYを短く押す	AutP	OFF	現在の設定(OFF*または遅延時間の秒数を表す1~5)が表示されます。
		AutP	1	
		AutP	2	
		AutP	3	
		AutP	4	
		AutP	5	
④	◀◀BACK または NEXT▶▶を短く押す	AutP	OFF	変更後の設定(OFF*または遅延時間の秒数を表す1~5)を表示させます。
		AutP	1	
		AutP	2	
		AutP	3	
		AutP	4	
		AutP	5	
⑤	▶PLAYを短く押すと設定を実行します ■STOPを短く押すと設定をキャンセルします	AutP		設定が実行またはキャンセルされます。
⑥	NEXT▶▶を2回短く押す	End		AutP → Ini → End の順番で表示が変わります。
⑦	▶PLAYを短く押す	0 0		設定モードを抜けて通常の動作に戻ります。

\*操作を誤るなどして、最初からやり直したい時には、電源を入れ直します。

# 6.8 6.5項~6.7項の設定を出荷設定に戻す方法

6.5項~6.7項の設定を出荷設定に戻します。操作は停止中に行います。リモート・コマンダーでは操作できません。

出荷設定 HS-L : 2, PonP : OFF, AutP : OFF

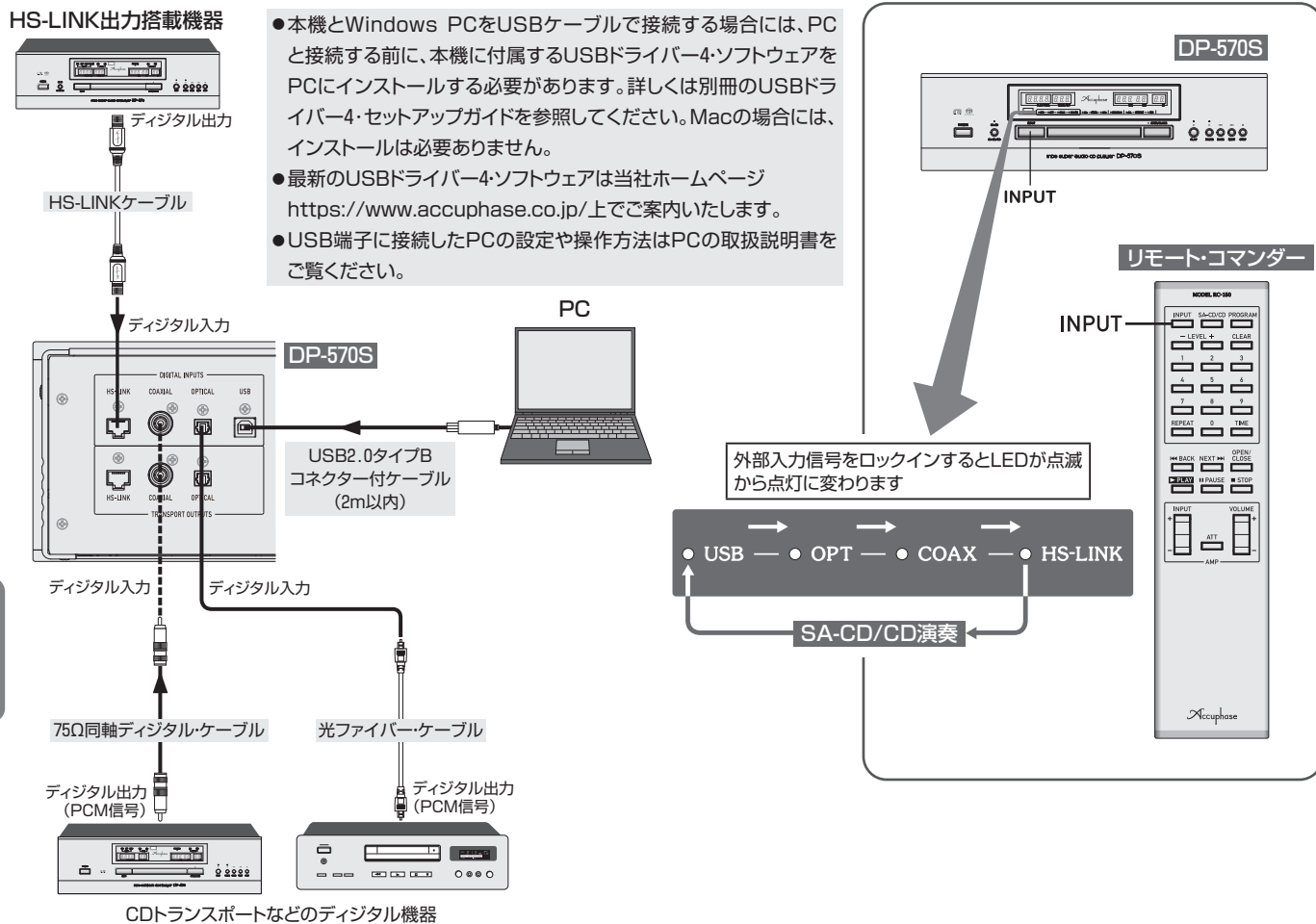
操作手順		操作後の表示	
①	■STOPを“2秒以上”長押しする	HS-L	通常の動作から設定モードへ入ります。
②	NEXT▶▶を3回短く押す	Ini	HS-L → PonP → AutP → Ini の順番で表示が変わります。
③	▶PLAYを短く押すと出荷設定に戻ります ▶PLAYを押さずに④へ進むと出荷設定には戻りません	Ini Fin	出荷設定への設定が終了すると、2秒間Finと表示されます。
④	NEXT▶▶を短く押す	End	Ini → End の順番で表示が変わります。
⑤	▶PLAYを短く押す	0 0	設定モードを抜けて通常の動作に戻ります。

\*操作を誤るなどして、最初からやり直したい時には、電源を入れ直します。

# 7. デジタル端子の活用方法

## 7.1 デジタル信号を入力して演奏する場合

本機に他のCDプレーヤーなどデジタル機器のデジタル信号を入力しても、演奏をお楽しみいただけます。



### 操作手順

- 1 CDトランスポートなど外部機器のデジタル出力端子と本機のデジタル入力端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れます。
- 3 **INPUT** ボタンまたはリモート・コマンダーの **INPUT** ボタンで、外部機器 (USB、OPTICAL、COAXIAL、HS-LINK) を選択します。
- 4 外部接続機器を操作して演奏をお楽しみください。

デジタル入力端子	接続ケーブル
HS-LINK	HS-LINK ケーブル
USB	USB2.0タイプBコネクター付ケーブル (2m以内)
OPTICAL	光ファイバー・ケーブル (JEITA 規格)
COAXIAL	75 Ω同軸デジタル・ケーブル

### 注意

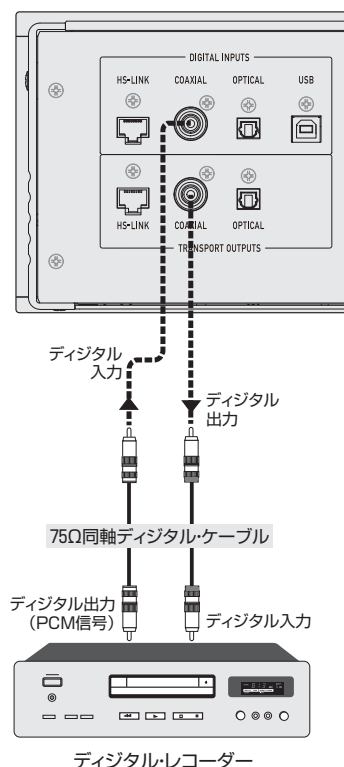
- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く (直径10cm以上) 束ねておいてください。決して強く曲げないでください。切断、再加工などはできません。
- 光ファイバーは、コア (芯材) に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は天敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。



## 7.2 デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合

[19]トランスポート出力端子と、[17]デジタル入力端子にデジタル・レコーダーを接続すると、CDの録音と再生が可能です。

- 注意**
- [3] INPUTボタンで、外部入力信号(USB、OPT、COAX、HS-LINK)に切り替えても、[19]トランスポート出力端子からは常に演奏ディスクの信号を出力します。
  - SA-CDのデジタル信号は録音できません。

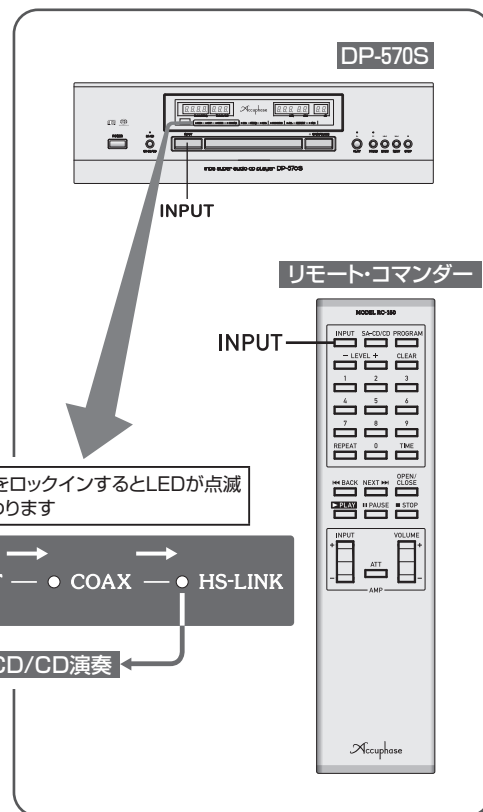


DP-570S

OPTICAL : 光ファイバー・ケーブル  
COAXIAL : 75Ω同軸デジタル・ケーブル

### メモ

光ファイバー・ケーブルでの接続も可能です。



外部入力信号をロックインするとLEDが点滅から点灯に変わります

デジタル端子  
の活用方法

## 再生

[INPUT]ボタンまたはリモート・コマンダーの[INPUT]ボタンで、外部入力信号(COAXIALまたはOPTICAL)に切り替え、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

## 録音

### 操作手順

- ① 本機でCDを再生して、スピーカーから音を出して確認します。
- ② このデジタル信号が各トランスポート出力端子からレコーダーへ出力されます。
- ③ デジタル録音は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数(CDの場合: 44.1kHz)を設定(変換)します。
- ④ レコーダーの録音をスタートすれば、本機のCDトランスポートのデジタル録音ができます。
- ⑤ トランスポート出力の各端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音することができます。

### 注意

録音中に外部入力信号に切り替えても、そのまま本機のCDトランスポートの録音を継続することができます。ただし、アナログ出力(スピーカーからの音)は外部接続機器の出力になります。

## 注意

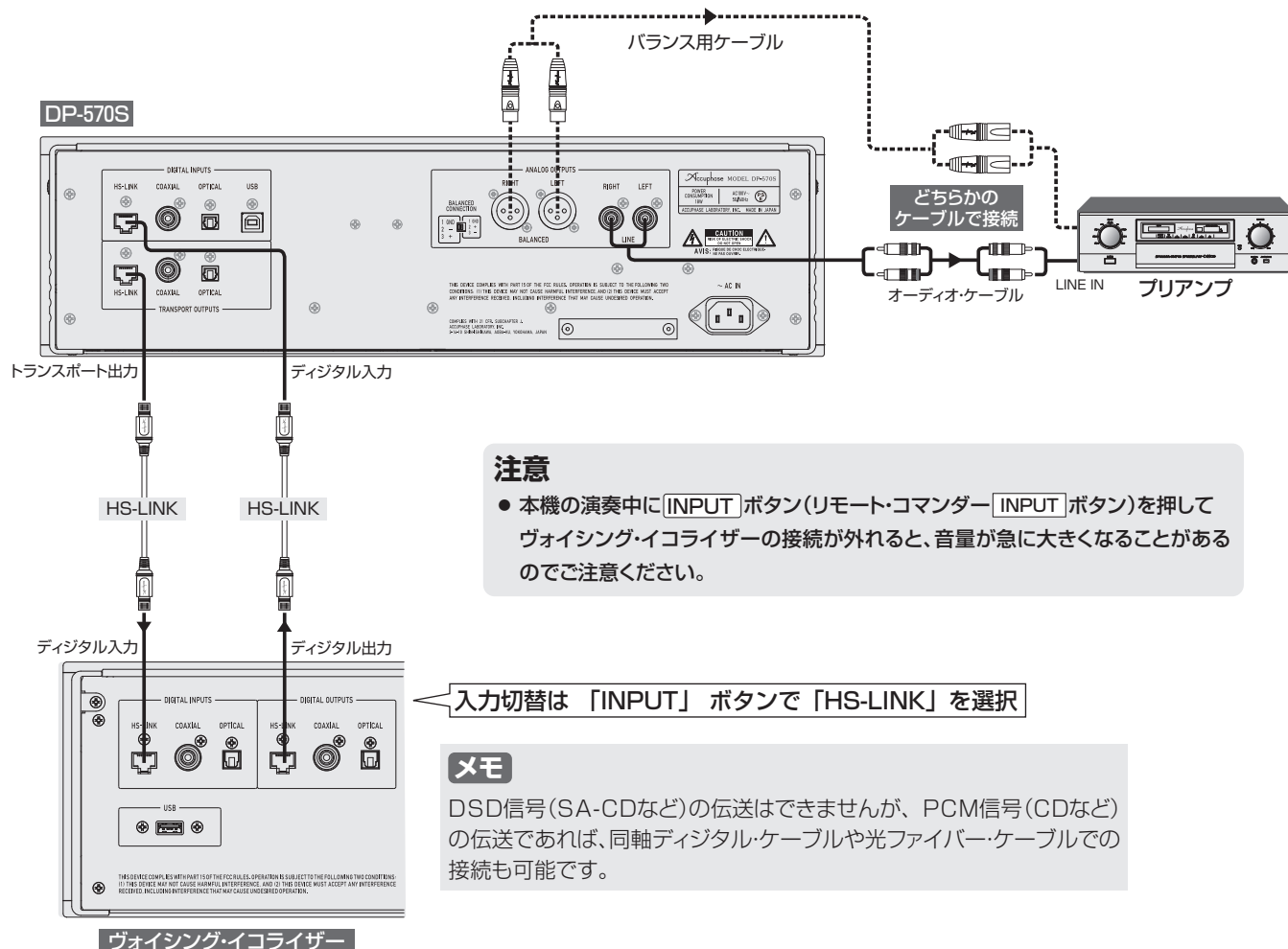
- \* デジタル録音の場合、SCMS(シリアル・コピー・マネジメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDIにデジタルで録音することはできません。
- \* デジタル → デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側相互のサンプリング周波数が合わないとは録音できません。
- \* デジタル・レコーダーに録音すると、すべてのトラックは結合されて、1つのトラックになります。

## 7.3 ヴォイスング・イコライザーをデジタル信号で接続する場合

ヴォイスング・イコライザーを接続する場合、プリアンプとパワーアンプの間にアナログ信号でヴォイスング・イコライザーを接続する方法を推奨しております。この方法では全ての音源をヴォイスング・イコライザーで補正することができます。

一方、SA-CD/CDなどのディスクの演奏のみをヴォイスング・イコライザーで補正したい場合には、本機とヴォイスング・イコライザーをデジタル信号で直接接続することが可能です。

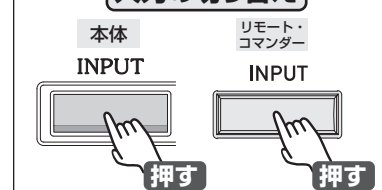
- 詳しい動作・接続方法は、ヴォイスング・イコライザーの取扱説明書を参照してください。



### デジタル入力の選択

「INPUT」ボタンまたはリモート・コマンダーの「INPUT」ボタンでHS-LINKを選択します。

### 入力の切り替え



○ USB — ○ OPT — ○ COAX — HS-LINK

外部入力信号をロックインするとLEDが点滅から点灯に変わります

HS-LINKを選択します

### メモ

ハイブリッド・ディスクを演奏時にSA-CD/CD切替ボタンを押すと、切り替えの間LEDが点滅してから点灯に変わります。

## 8. HS-LINK について

HS-LINKは弊社製品を広帯域デジタル信号で接続する、弊社独自のデジタル信号伝送規格です。

HS-LINKにはオリジナルのVer.1と、サンプリング周波数とビット数を拡張したVer.2の2つの規格があります。どちらの規格もHS-LINKケーブルを使用します。

注意：HS-LINKの接続には、当社製HS-LINKケーブルをお使いください。他のケーブルを使用すると、音が途切れたり、故障の原因となったりします。

HS-LINK	フォーマット	サンプリング周波数	ビット数	接続ケーブル
Ver.1	DSD	2.8MHz	1	HS-LINK ケーブル
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16~24	
Ver.2	DSD	2.8 / 5.6MHz	1	
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16~32	

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。

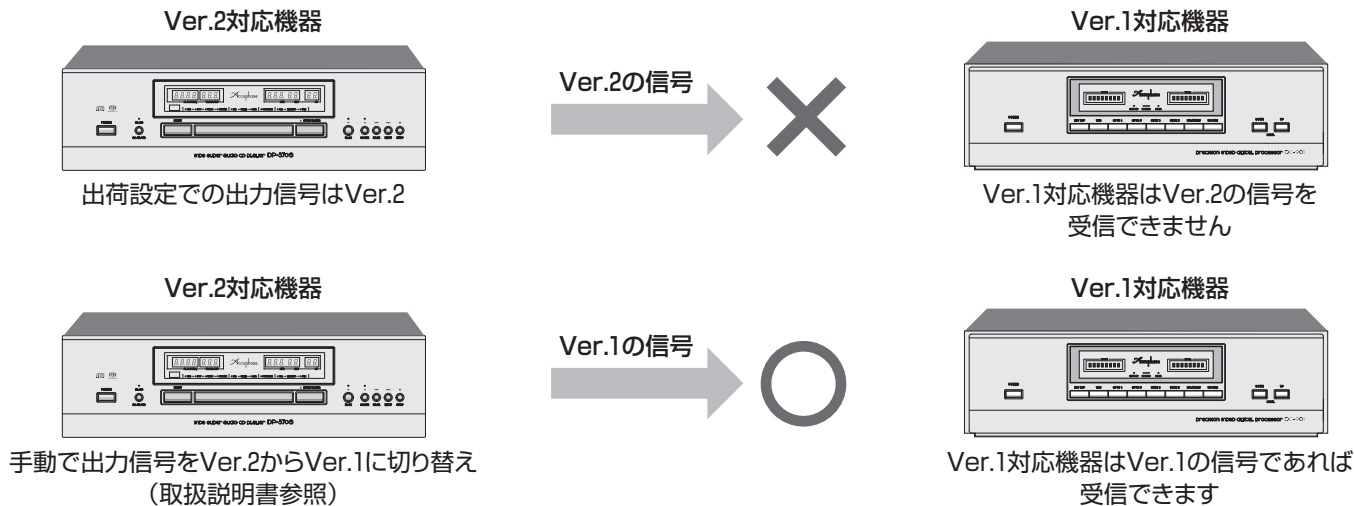
### 『Ver.1対応機器』と『Ver.2対応機器』

HS-LINKを搭載した機器は、Ver.1のみに対応する『Ver.1対応機器』と、Ver.1/Ver.2の両方に対応する『Ver.2対応機器』に分類されます(下表)。

分 類	機 種
Ver.1 対応機器 (Ver.1 のみに対応)	DP-900 / DC-901 / DP-800 / DC-801 / DP-100 / DC-101 / DP-720 / DP-700 / DP-600 / DP-550 / DF-55 / DF-45 / DG-58 / DG-48 / DG-38 オプション・ボード挿入時：DP-85 / DP-78 / DP-77 / DF-35 / DC-330 / DC-300
Ver.2 対応機器 (Ver.1/Ver.2 に対応)	DP-1000 / DC-1000 / DP-950 / DC-950 / DP-770 / DP-750 / DP-570S / DP-570 / DP-560 / DC-37 / DF-75 / DF-65 / DG-68 (2025 年 11 月現在)

### 注意：『Ver.2対応機器』から『Ver.1対応機器』への接続方法

『Ver.2対応機器』から『Ver.1対応機器』へ接続する場合には、『Ver.2対応機器』の出力信号設定を手動でVer.2からVer.1に切り替える必要があります。切替方法については22ページをご参照ください。



デジタル端子  
の活用方法

HS-LINK  
について

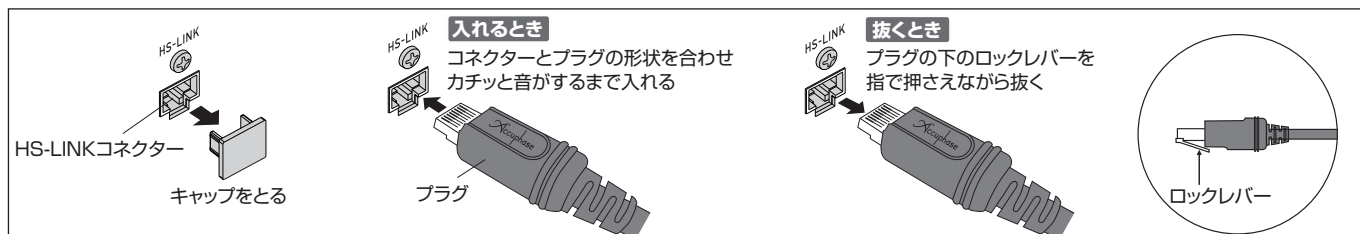
**メモ** 『Ver.1対応機器』から『Ver.2対応機器』へ接続する場合には、切り替えの必要はありません。そのままお使いいただけます。

### HS-LINKケーブル



三重シールド付ツイストペア8芯ケーブル

AHDL-15(別売)	1.5m
AHDL-30(別売, 特注品)	3.0m



## 9. 保証特性

保証特性の測定方法は、「JEITA CP-2402A」に準ずる。

### トランスポート部

#### 適合ディスク

2チャンネルSuper Audio CD  
CD  
データ・ディスク CD-R/-RW、DVD-R/-RW/+R/+RW  
(対応フォーマット：WAV、FLAC、DSF、DSDIFF)

#### 読み取り方式

非接触光学式

#### レーザー・ダイオード発光波長

SA-CD : 655nm  
CD : 790nm

#### レーザークラス

クラス1レーザー機器(IEC 60825-1)

#### トランスポート出力

HS-LINK フォーマット : 独自規格  
適合ケーブル : HS-LINK専用ケーブル  
OPTICAL フォーマット : JEITA CP-1212準拠  
COAXIAL フォーマット : IEC 60958準拠  
AES-3準拠

### デジタル・プロセッサ部

#### デジタル入力

##### HS-LINK

フォーマット : 独自規格  
適合ケーブル : HS-LINK専用ケーブル

##### USB

フォーマット : USB2.0ハイスピード(480Mbps)準拠  
適合ケーブル : USB2.0タイプB コネクター付ケーブル

##### OPTICAL

フォーマット : JEITA CP-1212準拠  
適合ケーブル : JEITA規格光ファイバー・ケーブル

##### COAXIAL

フォーマット : IEC 60958準拠  
AES-3準拠  
適合ケーブル : 75Ω同軸デジタル・ケーブル

### サンプリング周波数

入力	フォーマット (2ch)	サンプリング周波数	ビット数
HS-LINK Ver.2	DSD	2.8 / 5.6MHz	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16~32
HS-LINK Ver.1	DSD	2.8MHz	1
	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16~24
USB	DSD	2.8 / 5.6 / 11.2 / 22.5MHz (DoPは11.2MHz以下)	1
	PCM	44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192 / 352.8 / 384kHz	16~32
OPTICAL	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96kHz	16~24
COAXIAL	PCM	32 / 44.1 / 48 / 88.2 / 96 / 176.4 / 192kHz	16~24

### D/Aコンバーター

4MDS+方式

### 周波数特性

0.5~50,000Hz +0dB、-3.0dB

### 全高調波ひずみ率 + 雑音

0.0006% (20Hz~20kHz)

### S/N

121dB

### ダイナミックレンジ

118dB

### チャンネル・セパレーション

117dB (20Hz~20kHz)

### 出力電圧 / 出力インピーダンス

BALANCED : 2.5V / 50Ω 平衡 XLRタイプ  
LINE : 2.5V / 50Ω RCAフォノジャック

### 出力レベル・コントロール

0dB~-80dB (デジタル方式)1dBステップ

### 電 源

AC100V 50/60Hz

### 消費電力

18W

### 最大外形寸法

幅465mm × 高さ151mm × 奥行393mm

### 質 量

18.4kg

### 付属リモート・コマンダー RC-150

リモコン方式 : 赤外線パルス方式  
電 源 : DC3V乾電池 単3形2個使用  
最大外形寸法 : 50.0mm×200.5mm×21.0mm  
質 量 : 190g(電池含む)

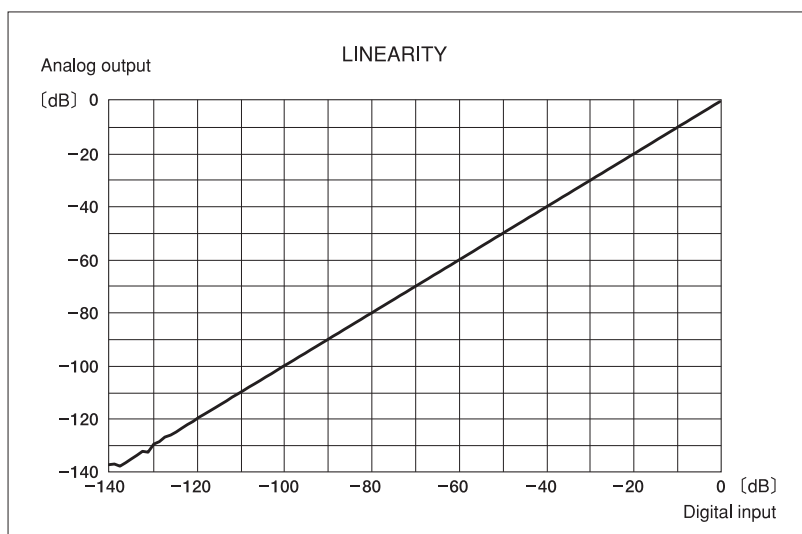
#### ●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本産業規格「電磁両立性-第3-2部：限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

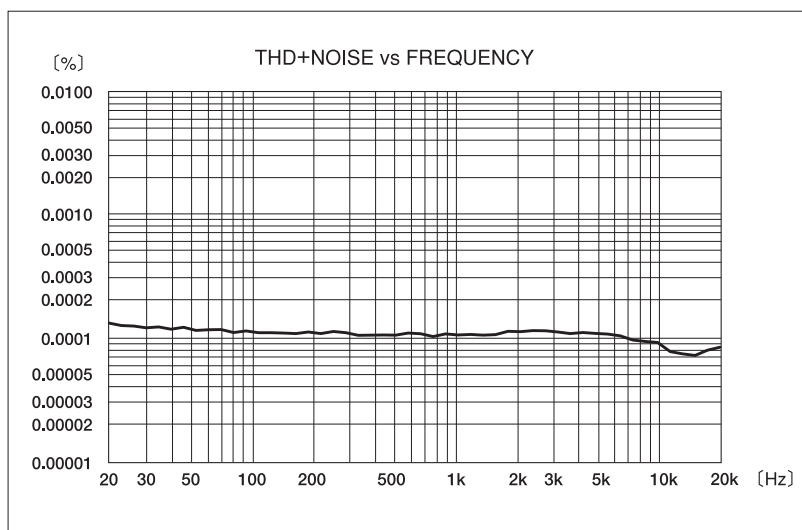
#### ●本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

- Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
- Macは米国Apple Inc.の登録商標です。

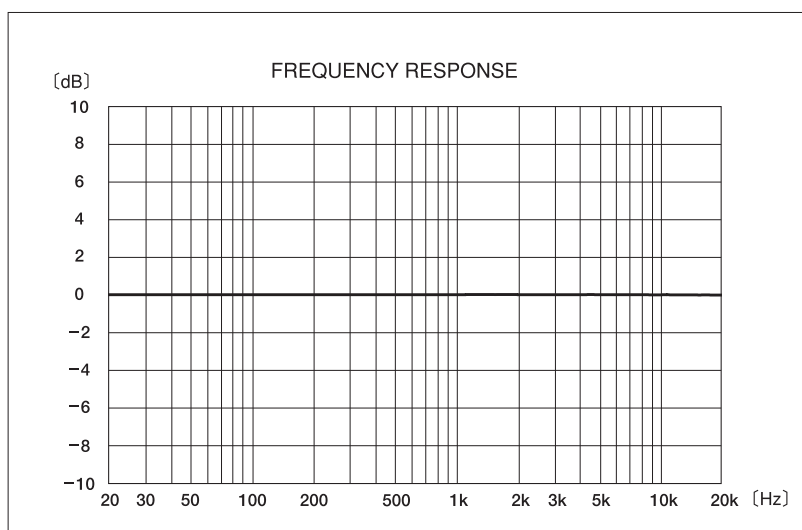
# 10. 特性グラフ



リニアリティ  
(デジタル入力対アナログ出力)

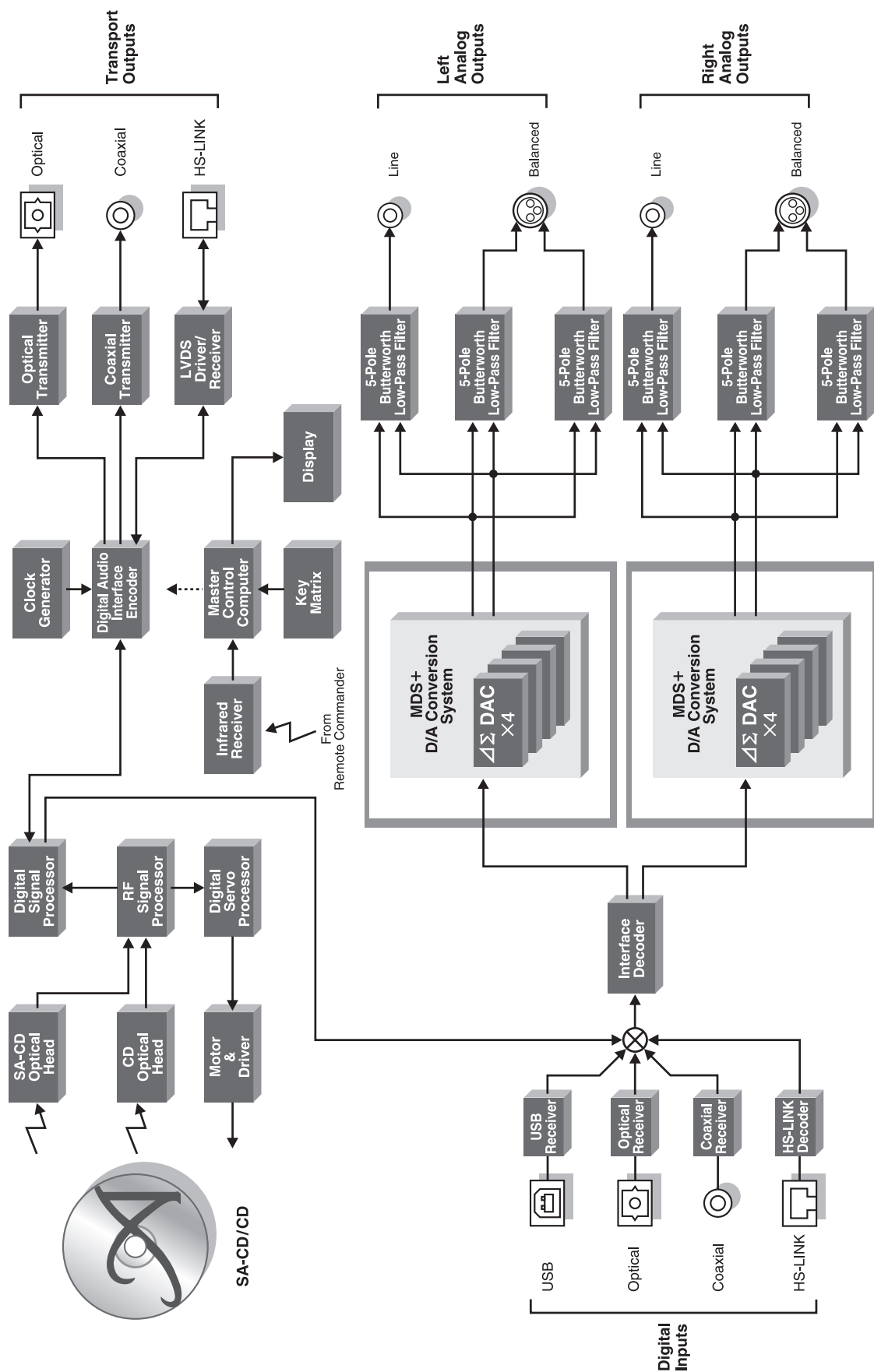


全高調波ひずみ率  
(雑音含む) 対周波数特性



周波数特性

# 11. ブロック・ダイアグラム



ブロック・  
ダイアグラム  
故障がな  
思われるときは



## 12. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。

これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

**注意**：接続を変えるときは、必ず各機器の電源スイッチを切る。

現 象	原 因 等	対 処 方 法
電源が入らない。	電源コードが抜けている。	本体側とコンセント側の挿入箇所を確認します。
	電源コードが傷んでいる。	危険ですので傷んでいる電源コードは使用せず、当社製品取扱店または当社品質保証部へご連絡ください。
デジタル出力で接続した機器がロックしない。	接続した機器がHS-LINK Ver.2に対応していない。	本機のHS-LINK出力をVer.1に設定してください(22ページ参照)。
	接続した機器の入力選択が異なる。	接続した機器の入力をお確かめください。
	同軸ケーブルまたは光ファイバーで接続し、SA-CDを演奏している。	HS-LINKで接続してください。同軸ケーブル及び光ファイバーケーブルではSA-CDの信号を出力できません。
ディスクの演奏が始まらない。	外部入力信号が選択されている。	INPUTインジケータが全て消灯するまで、 <b>[3]</b> INPUTボタンを押す(10ページ)。
	ディスクのセンターホールにバリが残っている。	バリを取り除いてください(3ページ参照)。
	ピックアップ・レンズが結露している。	電源を入れてディスクを取り出し、1時間ほど経過すると結露は自然になくなります。
	本機では演奏できないディスクを装着している。	本機で演奏できるディスクをご確認ください(5ページ参照)。
	アナログ出力信号の出力レベルがかなり低く設定されている。	<b>[12]</b> LEVELボタンで出力レベルを適切な値に設定する(13ページ参照)。
音が途切れる。 雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる。	ディスクに反りや汚れや傷がある。	ディスクをご確認ください。
	光ファイバーケーブルのプラグが汚れている。	光ファイバーケーブルのプラグをご確認ください。
両方または片方のスピーカーから音が出ない。	接続が正しくされていない。	全ての機器が正しく接続されているか確認します。
	信号が出力されていない。	全ての機器が信号を出力する状態であるか確認します。
片方のスピーカーから音が出ない。	上記“両方または片方のスピーカーから音が出ない。”の原因に該当しない場合。	下記“片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法”をお試しください。
定位感がはっきりしない。	片方のチャンネルだけ位相が逆になっている。	スピーカー・ケーブルの極性(+/-)が正しいか確認します。
リモート・コマンダーで操作できない。	電池が入っていない。	電池を入れる。
	電池の極性が異なる。	電池ケースの $\oplus$ $\ominus$ を確認し、電池を正しく挿入する。
	電池が切れている。	新しい電池と交換する。
	受光部付近に障害物がある。	受光部付近に障害物を置かない。
	テレビやインバーター照明等の影響で、受信できない。	テレビやインバーター照明等から離す。
電源スイッチを入れると自動的に演奏が始まる。	電源が入ると同時に演奏を開始するパワー・オン・プレイがONに設定されている。	パワー・オン・プレイをOFFにする(22ページ参照)。

### 片方のスピーカーから音が出ない場合に原因を探す方法

注意：接続を切り替える時は、必ず各機器の電源を切る

手順	方 法	結 果	原 因
1	左右のスピーカー・ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ● パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル → スピーカーの右チャンネル ● パワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル → スピーカーの左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	スピーカー・ケーブルの接続やスピーカーに問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーまたはプリアンプまたはパワーアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。さらにセパレート・アンプの場合には手順2を、プリメイン・アンプの場合は手順3を行います。
2	ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ● プリアンプの左チャンネル → パワーアンプの右チャンネル ● プリアンプの右チャンネル → パワーアンプの左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	パワーアンプに問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーまたはプリアンプに問題があると考えられます。さらに手順3を行います。
3	ケーブルの接続を以下のように入れ替えます。 ● 本機の左チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の右チャンネル ● 本機の右チャンネル → プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)の左チャンネル	同じチャンネルのスピーカーから音がでない。	プリアンプ(またはプリメイン・アンプ)に問題があると考えられます。
		反対チャンネルのスピーカーから音がでない。	プレーヤーに問題があると考えられます。

ブロック・ダイアグラム  
故障かな?と思われるときは

# 13. アフターサービスについて

## 保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
  - \*ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
  - \*『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
  - \*長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

## 保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



## 注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

## その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。  
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

## お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部  
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10  
TEL 045(901)2771(代表)  
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。  
<https://www.accuphase.co.jp/>

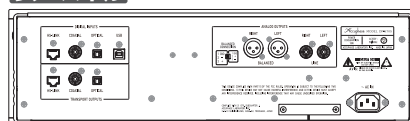
## 修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況：できるだけ詳しく

### リア・パネル



シリアル番号

- \* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。



*enrich life through technology*



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

**アキュフェーズ株式会社**

〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10

TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959

<https://www.accuphase.co.jp/>